

基準 6 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点 6-1-①： 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

＜準学士課程＞

（観点に係る状況）

教育上の目的を達成するために体系的なカリキュラムが編成されている。カリキュラムや卒業要件の変更等は（前出資料 4-2-②-2）に示す教務委員会で審議され（資料 6-1-①-1）、（資料 6-1-①-2）に示す教員会議で報告されている（資料 6-1-①-3）。進級については、学年毎に修得すべき単位数を修得できない場合等は、（前出資料 5-3-①-1，別添「学生便覧」4 頁），（前出資料 5-3-①-2，別添「学生便覧」6 頁）及び（前出資料 5-3-①-3，別添「学生便覧」100 頁）に示されるように原級留置（留年）となるが、教務に関する申し合せ事項（前出資料 5-3-①-4）による進級認定会議（資料 6-1-①-4）における審議の上仮進級が認められた場合は、（資料 6-1-①-5）のように次年度以降の指導により合格とすることができ、卒業要件を満たしたことが卒業認定会議（資料 6-1-①-6）において承認された場合にのみ卒業が認められている。

（資料 6-1-①-1）「学則（教育課程）の改正に関する教務委員会議事録（抜粋）」

議 事 録

会議の名称	教務委員会	平成 16 年度（第 7 回）
日 時	平成 16 年 10 月 13 日（水）	16 時 00 分～16 時 30 分
出席者	会議構成員 15 名（定員 15 名）	その他の職員 2 名 計 17 名
会 場	会議室	
議題等		
1. 審議事項		
(1) 学則の一部改正について		
委員長から資料 NO.1 に基づき説明があり、審議の結果、電気工学科選択科目「通信情報工学Ⅱ」を「情報通信工学Ⅱ」に修正して承認された。また、平成 17 年度 1 年生に於いては、工学基礎コースが各学科との混合学級になるため、教科書、参考書、定期試験、シラバスを統一するよう委員長から依頼があった。		

（出典 教務委員会議事録）

(資料 6－1－①－2)「福井工業高等専門学校教官会議規程」

第 1 編 規程・内規（福井工業高等専門学校教官会議規程） ○福井工業高等専門学校教官会議規程 （昭和41年 4月1日） （規 程 第 8 号） 改正 昭和43年 8月31日規程第 3号 昭和47年 4月26日規程第 2号 昭和48年 4月11日規程第 8号 昭和55年 3月24日規程第 3号 （設置） 第 1 条 本校に教官会議を置く。 （目的） 第 2 条 教官会議は、校長の命を受けて次の事項を審議する。 一 校長の諮問した事項 二 学生の入学、卒業、懲戒その他学籍の異動に関する判定 三 諸規程の制定及び改廃 （組織） 第 3 条 教官会議は、専任の教授、助教授、講師及び助手をもって組織する。 2 教官会議の議長は、校長が任命する。 3 議長の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、引き続き2年を超えることはできない。 4 校長は、教官会議に出席する。 5 教官会議の議長は、教官会議に教官以外の者の出席をもとめてその意見をきくことができる。 （議長の職務） 第 4 条 教官会議の議長は、案件の受付・調整、会議の運営等に当たる。 （会議） 第 5 条 教官会議は、毎月1回定例日に開催する。ただし、議題の都合により定例の教官会議を開催しないことがある。必要があるときは、臨時に開催することができる。 （庶務） 第 6 条 本会議の庶務は、庶務課庶務係が処理する。 附 則 96	第 1 編 規程・内規（福井工業高等専門学校教官会議規程） この規程は、昭和41年 4月1日から施行する。 附 則（昭和43年 8月31日改正） この規程は、昭和43年 8月31日から施行する。 附 則（昭和47年 4月26日改正） この規程は、福井工業高等専門学校事務組織規程の一部を改正する規程（昭和47年規程第1号）の施行の日（昭和47年 4月1日）から施行する。 附 則（昭和49年 4月11日改正） この規程は、福井工業高等専門学校学則の一部を改正する規則（昭和49年規則第2号）の施行の日（昭和49年 4月11日）から施行する。 附 則（昭和55年 3月24日改正） この規程は、昭和55年 4月1日から施行する。 D 〔福井高専三〕 九七 97
--	---

(出典 福井工業高等専門学校 規則集 96頁)

(資料 6－1－①－3)「学則(教育課程)の改正に関する教員会議議事要旨(抜粋)」

1 1 月定例教員会議議事要旨	
日 時	平成16年11月25日（木）15時00分～16時10分
場 所	合併教室
出席者	校長、議長：森、副議長：原田、構成員67名（欠席10名） 計70名
列席者	事務部長、庶務課長、会計課長、学生課長、学生課専門員、庶務係長、教務係長、庶務主任
I 報告事項	
1. 校長報告	
1) JABEE実地審査結果について	
校長から、JABEE実地審査(10月31日～11月2日)についての報告があり、教職員への謝辞があった。	
2) 平成17年度校務分掌について	
校長から、資料1に基づき報告があった。	
3) 平成17年度非常勤講師の任用について	
校長から、平成17年度非常勤講師任用の際には、「任用の説明責任が果たせること」、「任用時間数は本年度より平均10%下回ること」に留意してほしい旨の依頼があった。また、非常勤職員の採用についても同様である旨の説明があった。	
4) 平成16年度秋季東海・北陸地区国立高等専門学校長会議について	
校長から、資料2に基づき報告があった。	
5) 「平成16年度教育環境要望調査アンケート」について	
校長から、資料3に基づき報告があった。	
2. 教務主事報告	
1) 福井工業高等専門学校学則の一部を改正する規則（案）の制定について	
教務主事から、資料4に基づき報告があった。	

(出典 教員会議議事要旨)

(資料 6-1-①-4) 「進級認定に関する教員会議議事要旨(抜粋)」

3 月定例教員会議議事要旨

日 時 平成 17 年 3 月 23 日 (水) 13 時 30 分～14 時 15 分

場 所 合併教室

出席者 議長：下條，構成員 66 名（欠席 11 名）計 69 名

列席者 庶務課長，学生課長，庶務係長，学生課専門員，庶務主任，教務係員

議 事

I 審議事項

1. 平成 16 年度進級認定について

教務主事から、資料 1 (当日配布) に基づき、不合格基準及び進級認定基準について

説明があり、審議の結果、原案が了承された。

なお、原級留置者数及び仮進級者数は次のとおりである。

学科名	原 級 留 置 者 数					仮 進 級 者 数					合計
	1 年	2 年	3 年	4 年	計	1 年	2 年	3 年	4 年	計	
機械工学科	0	1	1	4	6	1	6	3	2	12	18
電気工学科	0	0	1	1	2	3	3	3	4	13	15
電子情報工学科	0	0	1	0	1	4	8	8	9	29	30
物質工学科	0	0	2	1	3	2	2	3	3	10	12
環境都市工学科	0	0	1	3	4	4	1	1	1	7	11
合 計	0	1	6	9	16	14	20	18	19	71	87

(出典 教員会議議事要旨)

(資料 6-1-①-5) 「仮進級及び進級認定に関する学則の運用基準(抜粋)」

第 8 仮進級者の仮進級の解除及び進級認定に関する事項

1 教務に関する申合事項「第 7 進級及び卒業に関する事項」第 2 項 (1) ア (7) に定める
仮進級については、次のとおり取扱うものとする。 (平成 8. 9.19)

(1) 仮進級者の不合格科目は、適切な指導により 1 年未満で合格させることができる。

(平成 8. 9.19)

(2) (1) において、学年末成績締切日までに合格とならなかった科目は、その年度の不
合格科目の一つとして算入する。 (平成 8. 9.19)

(3) 仮進級のまま年度途中で退学願を出した者は、前年度の学年を修了したものとみな
すことができる。 (平成 8. 9.19)

2 教務委員会で判定し、校長の決裁を経たものについては、その都度学科主任及び学級担
任に通知する。 (昭和 55. 4.17)

3 教官会議への報告は、卒業認定会議（教官会議）及び進級認定会議（教官会議）の資料
をもって代える。 (昭和 55. 4.17)

(出典 教務に関する申し合せ事項集 9 頁)

(資料 6 - 1 - ① - 6) 「卒業認定に関する教員会議議事要旨(抜粋)」

3 月臨時教員会議議事要旨

日 時 平成 17 年 3 月 10 日 (木) 15 時 00 分～15 時 10 分

場 所 合併教室

出席者 校長, 議長: 原田 構成員 69 名 (欠席 8 名) 計 71 名

列席者 事務部長, 庶務課長, 学生課長, 学生課専門員, 庶務係長, 教務係長, 庶務主任

議 事

1 審議事項1. 平成 16 年度卒業認定について教務主事から、資料 1 (当日配布) に基づき、卒業認定条件等の説明があり、学科ごとに審議の結果、原案が了承された。卒業者数は次のとおりである。

機 械 工 学 科	38 名
電 気 工 学 科	40 名
電子情報工学科	43 名
物 質 工 学 科	37 名
環境都市工学科	37 名
計	195 名

(出典 教員会議議事要旨)

(分析結果とその根拠理由)

各学科の目的に沿ったカリキュラムが編成され、進級・卒業に関し明確な基準が設けられており、適切な取り組みがなされている。

＜学士課程＞

（観点に係る状況）

各専攻の教育上の目的を達するために体系的なカリキュラムが編成されている。カリキュラムや修了要件の変更等は専攻科委員会（前出資料 4－2－②－5）で審議され、準学士課程同様に教員会議で報告されている。修了要件を満たしたことが修了認定会議（資料 6－1－①－7）において承認された場合にのみ修了が認められている。

（資料 6－1－①－7）「専攻科修了に関する教員会議議事要旨（抜粋）」

3月臨時教員会議議事要旨

日 時 平成17年3月2日（水）16時00分～16時15分
場 所 合併教室
出席者 校長，議長：森 構成員56名（欠席21名）計59名
列席者 事務部長，庶務課長，会計課長，学生課長，学生課専門員，庶務係長，庶務主任

議 事

1.審議事項

1.平成16年度修了認定について

専攻科長から、資料1(当日配布)に基づき、修了認定条件等および修了予定者についての説明があり、審議の結果、原案が了承された。
修了者数は次のとおりである。

生産システム工学専攻	19名
環境システム工学専攻	10名
合 計	19名

（出典 教員会議議事要旨）

（分析結果とその根拠理由）

各専攻の目的に沿ったカリキュラムが編成され、修了に関し明確な基準が設けられており、適切な取り組みがなされている。

観点 6－1－②： 各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位取得状況、進級の状況、卒業（修了）時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作などの内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

＜準学士課程＞

（観点に係る状況）

（1） 科目（単位）取得率

必修科目の不合格科目数及び取得率を（資料 6－1－②－1）に示す。不合格科目数はほぼ第 3 学年でピークを示しているが、過去 5 年で比較すると減少傾向を示している。

（2） 進級（卒業）率及び原級留置率

（資料 6－1－②－2）に仮進級率、原級留置率、進級率を示す。（1）で述べたように、不合格科目の減少により、仮進級率、原級留置率共に減少傾向がみられる。

（3） 退学率

進級及び卒業の認定に関する教務に関する申し合せ事項（前出資料 5－3－①－4）による原級留置や、学生からの進路変更等の希望によって年度途中や、学年末に退学する学生が現れる。（資料 6－1－②－3）に退学者数、退学率を示す。退学者は（1）で述べた不合格科目数の多い第 3 学年でピークを示しているが、ここ数年減少傾向がみられる。なお、退学者の修了学年の認定については、進級及び卒業の認定に関する教務に関する申し合せ事項（資料 6－1－②－4）により行われている。

（4） 欠課時数

学生 1 人当たり、1 単位当たりの必修科目の欠課時数を（資料 6－1－②－5）に示す。欠課時数は学年進行と共に多くなっており、減少傾向はみられていない。

（資料 6－1－②－1）「学年別の不合格必修科目数累計と必修科目取得率の経年変化」

学年別の不合格必修科目数累計と必修科目取得率の経年変化

年度	第 1 学年		第 2 学年		第 3 学年		第 4 学年		第 5 学年		全学年	
	不合格必修科目数 累計	修得率	不合格必修科目数 累計	修得率	不合格必修科目数 累計	修得率	不合格必修科目数 累計	修得率	不合格必修科目数 累計	修得率	不合格必修科目数 累計	修得率
平成12 (2000)	15	99.5%	42	98.7%	117	96.3%	94	97.2%	31	98.3%	299	98.0%
平成13 (2001)	17	99.4%	37	98.9%	116	95.5%	90	97.3%	19	98.9%	279	98.0%
平成14 (2002)	15	99.5%	31	99.1%	84	97.3%	53	98.3%	15	99.9%	198	98.8%
平成15 (2003)	9	99.7%	18	99.5%	68	97.4%	57	98.4%	0	100.0%	152	99.0%
平成16 (2004)	17	99.5%	31	99.1%	41	98.6%	60	98.2%	0	100.0%	149	99.1%
年平均	15	99.5%	32	99.1%	85	97.0%	71	97.9%	13	99.4%	215	98.6%

（出典 学生課）

(資料 6－1－②－2)「学年別の仮進級者数・原級留置者数・進級率等の経年変化」

学年別の仮進級者数・原級留置者数・進級率等の経年変化

年度	第1学年					第2学年					第3学年				
	仮進級者数	仮進級率	原級留置者数	原級留置率	進級率	仮進級者数	仮進級率	原級留置者数	原級留置率	進級率	仮進級者数	仮進級率	原級留置者数	原級留置率	進級率
平成12(2000)	11	5.3%	2	1.0%	99.0%	27	13.1%	5	2.4%	97.6%	35	16.4%	20	9.4%	90.6%
平成13(2001)	15	7.5%	0	0.0%	100.0%	21	10.1%	5	2.4%	97.6%	35	16.7%	22	10.5%	89.5%
平成14(2002)	11	5.5%	1	0.5%	99.5%	24	11.8%	2	1.0%	99.0%	26	12.3%	11	5.2%	94.8%
平成15(2003)	7	3.5%	1	0.5%	99.5%	8	4.0%	3	1.5%	98.5%	13	6.3%	12	5.9%	94.1%
平成16(2004)	14	7.0%	0	0.0%	100.0%	20	10.0%	3	1.5%	98.5%	18	9.0%	8	4.0%	96.0%
年平均	11.6	5.8%	0.8	0.4%	99.6%	20	9.8%	3.6	1.8%	98.2%	25.4	12.2%	14.6	7.0%	93.0%

年度	第4学年					第5学年					第1～4学年(合計・率は平均)				
	仮進級者数	仮進級率	原級留置者数	原級留置率	進級率	仮進級者数	仮進級率	原級留置者数	原級留置率	卒業率	仮進級者数	仮進級率	原級留置者数	原級留置率	進級率
平成12(2000)	39	19.3%	15	7.4%	92.6%	0	0.0%	1	0.5%	99.5%	112	13.5%	42	5.2%	94.8%
平成13(2001)	31	15.4%	17	8.5%	91.5%	0	0.0%	1	0.5%	99.5%	102	12.5%	44	5.5%	94.5%
平成14(2002)	23	11.9%	8	4.1%	95.9%	0	0.0%	1	0.5%	99.5%	84	10.4%	22	2.8%	97.2%
平成15(2003)	14	6.8%	11	5.3%	94.7%	0	0.0%	0	0.0%	100.0%	42	5.2%	27	3.3%	96.7%
平成16(2004)	19	9.5%	17	8.5%	91.5%	0	0.0%	0	0.0%	100.0%	71	8.9%	28	3.5%	96.5%
年平均	25.2	12.6%	13.6	6.8%	93.2%	0	0%	0.6	0.3%	100%	82.2	10.1%	32.6	4.1%	95.9%

(出典 学生課)

(資料 6－1－②－3)「学年別の退学者数・退学率の経年変化」

学年別の退学者数・退学率の経年変化

年度	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		全学年	
	退学者数	退学率	退学者数	退学率	退学者数	退学率	退学者数	退学率	退学者数	退学率	退学者数	退学率
平成12(2000)	1	0.5%	4	1.9%	14	6.3%	10	5.0%	1	0.5%	30	2.8%
平成13(2001)	1	0.5%	3	1.4%	20	9.5%	13	6.4%	1	0.5%	38	3.7%
平成14(2002)	1	0.5%	1	0.5%	15	7.0%	3	1.5%	3	1.6%	23	2.2%
平成15(2003)	1	1.0%	1	0.5%	11	5.2%	8	3.8%	1	0.5%	23	2.2%
平成16(2004)	0	0.0%	1	0.5%	9	4.5%	9	4.3%	0	0.0%	19	1.9%
年平均	0.8	0.5%	2.0	1.0%	13.8	6.5%	8.6	4.2%	1.2	0.6%	26.6	2.6%

退学者数=年度途中退学者数+学年末退学者数

退学率=(退学者数/学生数)×100

(出典 学生課)

(資料 6－1－②－4) 「修了に関する規則(抜粋)」

- 3 原学年に留められた者の修了に関する運用について (昭和 55. 7. 17)
- (1) 原学年に留められることが決定した者が、その年度の 3 月 31 日までに退学を願い出たときは、当該学年の修了を認めることがある。
- (2) (1)において、次の者は、当該学年の修了を認めない。
- ア 第 5 学年である者
- イ 学則別表第 1 及び別表第 2 及び取扱規則第 2 条に規定する必修科目及び選択必修科目並びに学年別修得単位数を満たすに必要な選択科目の学年成績のうち次の者 (平成 7. 3. 16)
- (7) 不可の科目が 5 科目を超える者
- (i) 欠課時数が年間授業総時数の 3 分の 1 を超える科目がある者
- ウ 特別活動の欠課時数が、年間総時数の 3 分の 1 を超える者
- (3) (2)のイの(i) 及びウに該当した者でも、やむを得ない事情がある場合は、(2)にかかわらず、教務委員会及び進級認定会議(教官会議)で審議し、当該学年の修了を認めることがある。

(出典 教務に関する申し合せ事項集 8 頁)

(資料 6－1－②－5)

「学年別の必修科目の学生 1 人当たり・1 単位当たりの平均欠課時数の経年変化」

学年別の必修科目の学生1人当たり・1単位当たりの平均欠課時数の経年変化

年度	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	全学年
平成14 (2002)	0.42	0.82	1.07	1.18	1.8	0.96
平成15 (2003)	0.55	0.75	1.25	1.21	1.89	1.03
平成16 (2004)	0.30	0.76	0.80	1.30	2.18	0.92

1単位=90分×15回の履修

90分×1回の講義を欠席=欠課時数として2

第5学年の卒業研究は除く

(出典 学生課)

(5) 資格試験取得状況

資格試験取得状況を（資料 6－1－②－6）に示す。資格取得者数は年々増加している。平成 15 年度には、技術士補（技術士 1 次試験）に環境都市工学科 5 年生が水道部門、電気工学科 3 年生が最年少で電気・電子部門、平成 16 年度には環境都市工学科 5 年生が上下水道部門と建設部門に 1 名ずつ合格している。また、実用英検と工業英検は（前出資料 5－1－②－8）に示すように、単位の修得認定や単位振り替えを行い、取得を奨励している。

（資料 6－1－②－6） 「取得した資格と取得者数の変化」

各種資格取得者数

年度	資格名	取得者数	年度	資格名	取得者数
平成 12 (2000)	機械設計技術者(3級)	6名	平成 15 (2003)	初級システムアドミニストレータ	8名
	火薬類取扱保安責任者	1名		機械設計技術者(3級)	19名
	電気主任技術者(3種)	1名		電気主任技術者(3種)	2名
	デジタル工事担当者(1種)	1名		X線作業主任者	2名
	デジタル工事担当者(3種)	1名		基本情報技術者	8名
	デジタル技術検定(制御)	2名		第2種放射線取扱主任者	1名
	情報処理技術者(1種)	2名		画像情報処理(3級)	3名
	情報処理技術者(2種)	4名		CG検定(2級)	1名
	情報処理技術者(初級システムアドミニストレータ)	1名		CG検定(3級)	2名
	危険物取扱者(乙種全類)	5名		電気工事士(2種)	2名
	測量士補	5名		歴史能力検定(3級)	1名
	実用英検(準2級)	18名		工事担当デジタル(1種)	1名
	実用英検(2級)	1名		マルチメディア検定(2級)	1名
	工業英検(3級)	15名		デジタル技術検定(2級情報部門)	1名
	計	63名		MIDI検定(3級)	2名
平成 13 (2001)	機械設計技術者(3級)	7名	平成 16 (2004)	国内旅行業務取扱主任者	1名
	電気主任技術者(3種)	3名		危険物取扱者(乙種全類)	9名
	X線作業主任者	7名		CAD利用技術者試験(2級)	9名
	アナログデジタル工事担当者(総合種)	1名		公害防止管理者(水質関係第一種)	1名
	電気工事士(2種)	1名		技術士補(水道部門)	1名
	デジタル技術検定(3級)	1名		技術士補(電気・電子部門)	1名
	基本情報技術者	4名		測量士補	4名
	初級システムアドミニストレータ	5名		実用英検(準2級)	16名
	情報処理活用能力検定(J検)	1名		実用英検(2級)	2名
	危険物取扱者(乙種全類)	8名		工業英検(3級)	36名
	測量士	1名		計	134名
	測量士補	8名	平成 16 (2004)	機械設計技術者(3級)	30名
	実用英検(準2級)	8名		CAD利用技術者試験(2級)	52名
	実用英検(2級)	2名		CAD利用技術者試験(3級)	6名
	実用英検(準1級)	1名		色彩コーディネータ(2級)	1名
	工業英検(3級)	21名		色彩コーディネータ(3級)	1名
	計	79名		画像処理検定(2級)	1名
平成 14 (2002)	機械設計技術者(3級)	12名		画像処理検定(3級)	1名
	電気主任技術者(3種)	2名		CG検定(2級)	3名
	X線作業主任者	3名		第三種電気主任技術者	3名
	画像情報処理(2級)	1名		ソフトウェア開発技術者	2名
	画像情報処理(3級)	1名		基本情報技術者	7名
	CG検定(2級)	1名		初級システムアドミニストレータ	4名
	CG検定(3級)	1名		デジタル技術検定(2級情報部門)	11名
	ソフトウェア開発技術者	1名		デジタル技術検定(2級制御部門)	6名
	カラーコーディネーター検定試験(3級)	1名		デジタル技術検定(3級)	20名
	初級システムアドミニストレータ	8名		デジタル技術検定(4級)	2名
	基本情報技術者	14名		危険物取扱者(乙種全類)	11名
	危険物取扱者(乙種全類)	9名		ビジネス検定(3級)	1名
	測量士	1名		測量士	1名
	測量士補	11名		測量士補	10名
	CAD利用技術者試験(2級)	15名		技術士(1次)建設部門	1名
平成 14 (2002)	実用英検(準2級)	3名		技術士(1次)下水道部門	1名
	実用英検(1級)	1名		英語検定(準2級)	1名
	工業英検(3級)	30名		工業英検(3級)	1名
	工業英検(2級)	1名		第二種電気工事士	8名
	計	116名		計	185名

(出典 学生課)

(6) 各種競技大会等の受賞状況

(資料 6-1-②-7) に高専体育大会、アイデア大会ロボットコンテスト、学協会による優秀学生の表彰状況等を示す。最近 5 年間では、高専体育大会においては、テニスや卓球の全国大会優勝、アイデア大会ロボットコンテストにおいては、全国大会での特別賞受賞、また、5 年生の中から、各学協会から毎年 10 名ほどの学生が本校の推薦により表彰されている。

(資料 6-1-②-7) 「各種大会成績一覧(平成 16 年度)

各種大会等成績一覧 (5/5)

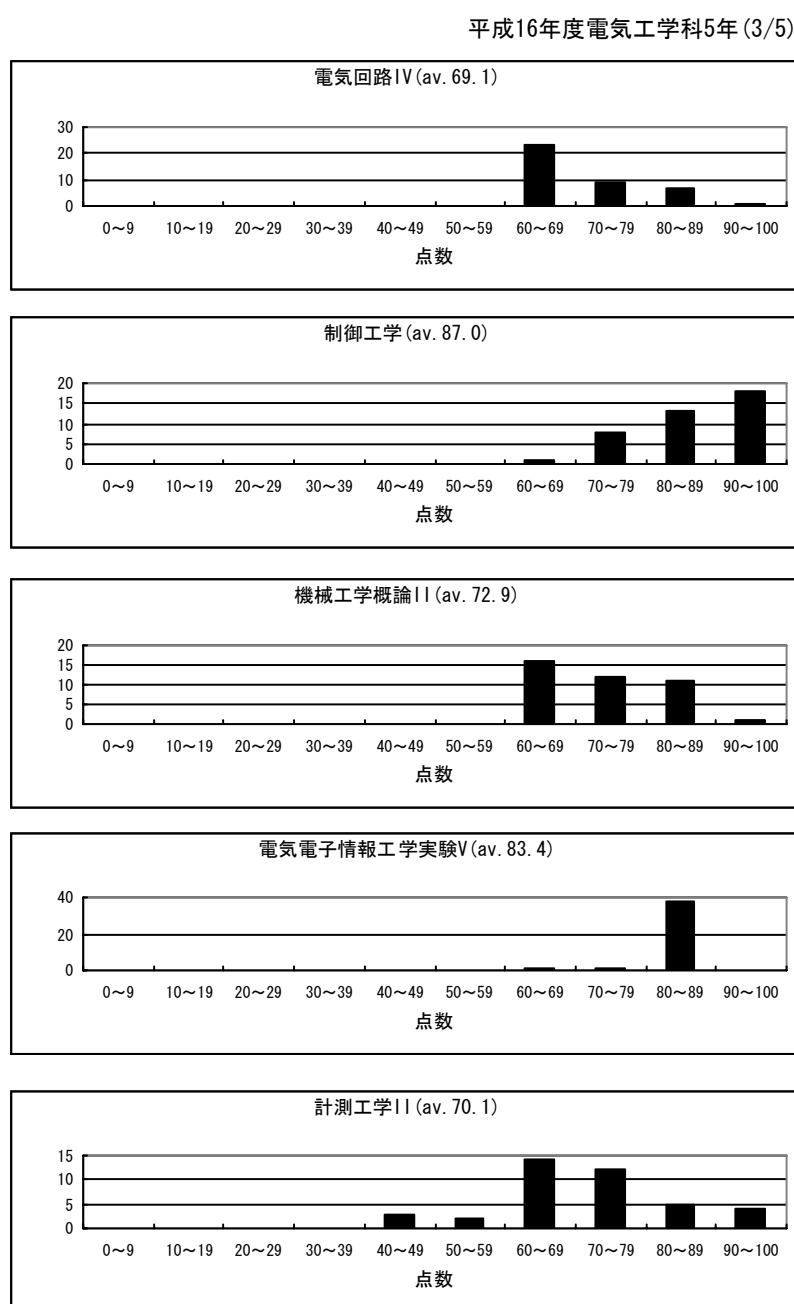
年度	大会名	成績
平成16 (2004)	福井県高等学校春季総合体育大会	柔道男子個人、81kg級5位、90kg級5位
		柔道女子個人、63kg級3位
		水泳男子(50m自由型)5位、(100m自由型)3位、(400m自由型)6位、8位、(100m背泳ぎ)8位、(200m平泳ぎ)6位、(100mバタフライ)5位、(200m個人メドレー)4位、(400mフリーリレー)5位、(400mメドレーリレー)5位、(800mフリーリレー)4位
		水泳女子(400mフリーリレー)4位
	第39回北陸地区高等専門学校体育大会	女子バレーボール優勝、最優秀選手、優秀選手
		卓球団体優勝、男子ダブルス3位
		水泳総合優勝、男子(50m自由型)優勝、3位、(100m自由型)優勝、2位、(200m自由型)優勝、(400m自由型)2位、(800m自由型)優勝、3位、(100m平泳ぎ)優勝、(200m平泳ぎ)優勝、2位、(100mバタフライ)3位、(100m背泳ぎ)優勝、2位、(200m個人メドレー)2位、(400mリレー)優勝、(400mメドレーリレー)優勝
		水泳女子(400mリレー)3位
		女子ソフトテニス団体優勝
		女子テニス団体優勝、シングルス優勝、2位、ダブルス優勝
		陸上総合4位、男子(1500m)3位、(5000m)3位、砲丸投3位
		男子バレーボール3位、優秀選手
		男子バスケットボール2位
		女子バスケットボール3位
		男子ソフトテニス団体3位
		男子テニス団体3位
		野球2位
		サッカー4位
		男子バトミントン団体4位
		女子バトミントン団体3位、シングルス3位、ダブルス2位
		男子剣道団体2位
		女子剣道団体2位、女子個人2位、3位
		柔道男子団体4位、個人60kg級3位、73kg級2位
		女子柔道団体2位、個人52kg超級2位
		ラグビー3位
		ハンドボール3位
	第39回全国高等専門学校体育大会	女子テニスシングルス優勝、ダブルス優勝
	アイデア対決ロボットコンテスト2004	水泳男子(400mメドレーリレー)9位、(100m自由型)2位
	優秀学生賞	東海北陸地区大会準優勝、全国大会2回戦
		日本機械学会 畠山賞
		電気学会北陸支部優秀学生賞
		電子情報通信学会北陸支部優秀学生賞(2名)
		日本電気技術者協会北陸支部優良卒業生
		情報処理学会北陸支部優秀学生賞
		映像情報メディア学会北陸支部優秀学生賞
		日本化学会北陸支部優秀学生将(2名)
		全国高専土木工学会近藤賞
		福井高専土木工学科環境都市工学科同窓会翔土会賞
	OPEN-R TECHNO FORUM 2004 IN PJAPAN	エンターテイメント競技(2位)
	第10回マグネットコンテスト	準アイデア賞(1名)、佳作(1名)、奨励賞(1名)、努力賞(1名)
	第1回さばえめがねwakuコンテスト	奨励賞(5名)
	ふくいソフトウェアコンペティション2004	福井県ソフトウェア奨励賞

(出典 学生課)

(7) 成績評価の分布

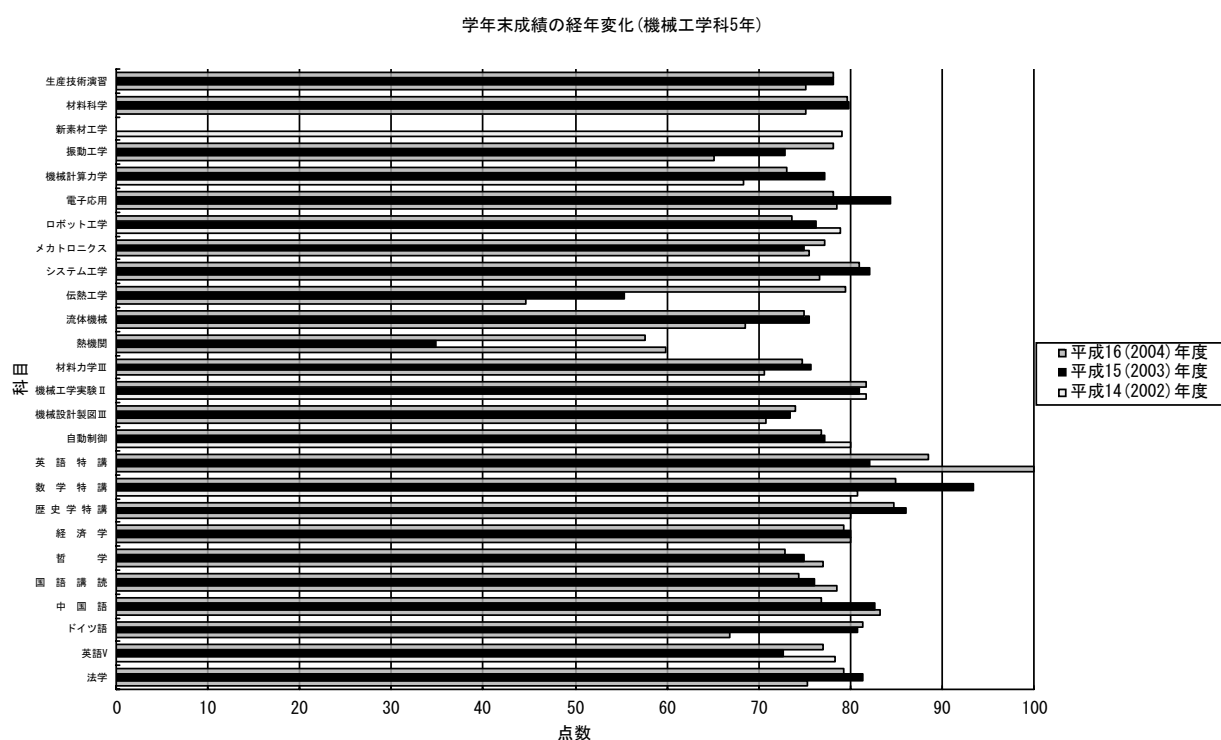
例として、平成16年度電気工学科5年生の、学年末成績の5科目の10点刻みの分布表（資料6－1－②－8）及び、機械工学科5年生の最近3年間の学年末成績の平均点（資料6－1－②－9）を示す。成績は絶対評価であるために、左右対象の分布はしていないが、平均点の一部の選択科目を除き、ほとんどの科目が70点～80点の間に保持されている。従って、全科目を平均した学科・学年ごとの学年末平均点も（資料6－1－②－10）のように約75～80点の間に保持されている。

(資料6－1－②－8) 「学年末成績の分布の例」



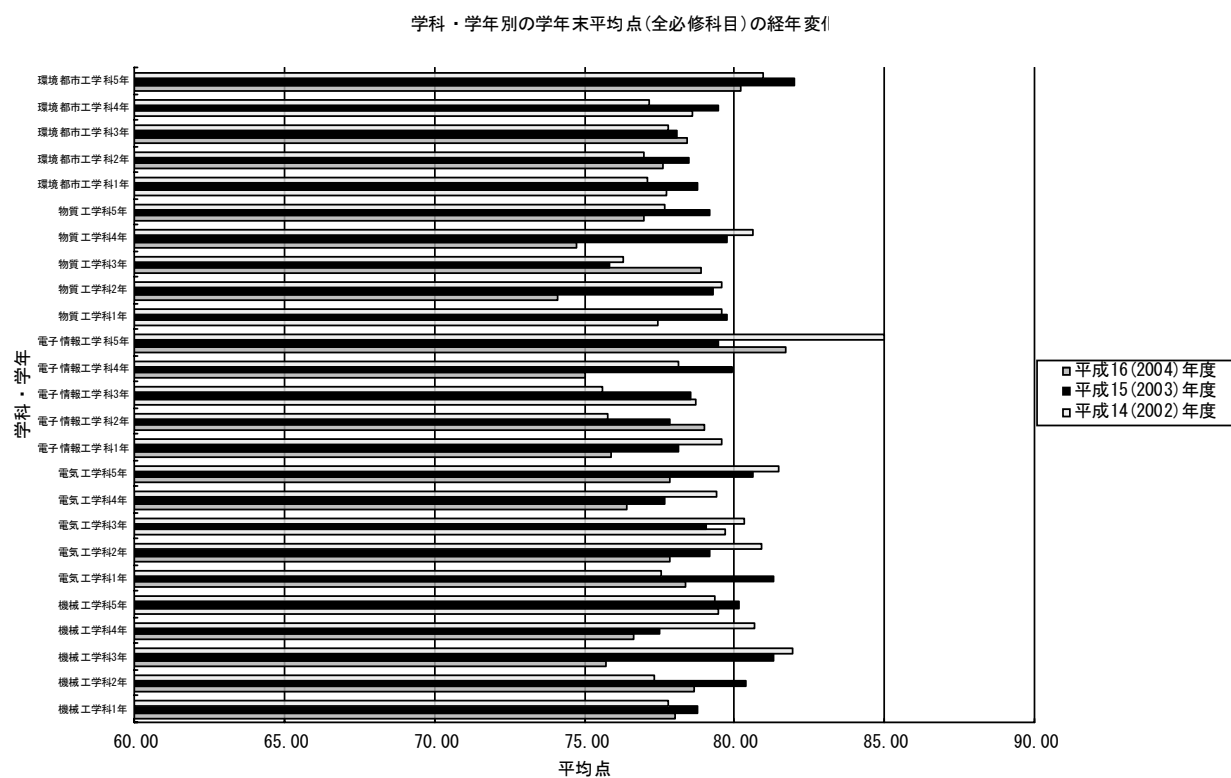
(出典 学生課)

(資料 6-1-②-9) 「機械工学科の科目ごとの学年末成績の経年変化」



(出典 学生課)

(資料 6-1-②-10) 「学科・学年ごとの学年末成績の経年変化」



(出典 学生課)

(8) 卒業研究

卒業研究の教員 1 名あたりの指導学生数は 2～6 名と少人数であり、5 学年の 4 月に研究室への配属が行われ、10 月頃の中間発表会や 2 月の卒業研究論文製作を経て、3 月の卒業研究発表会で総括している。卒業研究の口頭発表は（資料 6－1－②－11）の評価シートにより厳正に行われている。卒業研究論文のテーマ一覧を（資料 6－1－②－12）に示す。

（資料 6－1－②－11）「卒業研究発表会要旨集の表紙の例と評価シート」

平成 16 年度 物質工学科卒業研究報告会 主催 独立行政法人 国立 福井工業高等専門学校 物質工学科 日時：3 月 3 日（月） 9：00～16：30 3 月 4 日（火） 9：00～12：15 場所：大講義室 発表形式：口頭発表 発表時間：10 分 討論 5 分（1 人） 15 分 5 分（2 人）	平成 年 月 日 卒業研究発表会評価シート テーマ名 _____ 学生氏名 _____ ① 聴衆を意識しながら、口頭発表が論理的に展開されているかどうか (よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい) (1)発表タイトルと発表者名が明確に示され、発表するの(に)ふさわしい服装であるか (2)聴衆の方向を仰いで発表し、話している内容とスライドの内容が一致しているか (3)スライド 1 枚 1 枚丁寧に説明し、またスライドにある文言は復誦しているか (4)発表の最初の部分で内容の概略を説明しており、その順序のとおりと発表されているか (5)最初に結論（問題提起と解決策の概略）があり、その結論に到達するように発表されているか ② 研究目的に対する研究方法を計画するにあたり、適切な実験・解析方法が選択できているか (よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい) (1)研究目的を理解しているか (2)複数の実験・解析方法から選択しているか (3)選択した実験・解析方法の長所を理解しているか (4)選択した実験・解析方法の短所を理解しているか (5)選択した実験・解析方法が適切であるか ③ 研究テーマに沿った実験・解析結果の評価の妥当性、および研究テーマに関する工学的現象の成り立ち・仕組み等が説明できているか (よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい) (1)求めることが出来た結果の評価を行っている口頭発表であるか (2)求めることが出来た結果の評価の妥当性について検討している口頭発表であるか (3)研究テーマに関連する工学的現象の成り立ち・仕組み等に言及している口頭発表であるか (4)求められたデータの評価結果から、研究テーマに関連する工学的現象の成り立ちがわかりやすく説明されている口頭発表であるか (5)求められたデータの評価結果から、研究テーマに関連する工学的現象の仕組みがわかりやすく説明されている口頭発表であるか ④ 聴衆の質疑に対して適切に回答できているか (よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい) (1)発表時間を遵守したか (2)聴衆の進行に則って質疑応答したか (3)質問を真摯に聞き、その内容を把握に努めたか (4)質問内容に応じた回答を行ったか (5)回答の内容は簡潔で要点を明確にしていたか 審査員署名 _____
---	---

（出典 物質工学科）

(資料 6-1-②-12)「卒業研究テーマ一覧(例)」

物質工学科(平成16年度本科卒業研究)

学生氏名	研 究 課 題	指導教官
小阪 知柄	和紙褐色化に関する研究	上島 晃智
齊藤 杏奈	有機溶媒中での生化学変換	
橋詰久美子	害虫忌避コーティング剤の繊維への利用	
飛田 喬也	有用微生物群を用いた河川の浄化	
安達健太郎	トロロアオイ保存剤の有効な処理法の研究	小泉 貞之
大堂 充	トロロアオイに保存剤の劣化緩和、並びに有効な処理法の研究	
山崎 彰子	生態試料中の微量コバルトの簡易測定とその応用	
内山 優佳	位置特異的N-エチルプロトポリフィリンの多段階合成	松井修一
藤沢 潤一	キラルアミドのリチオ化を利用する光学活性な α -メチレン- γ -ブチロラクタン誘導体の合成	
渡辺 充	合成化学的手法を用いるヘム異常代謝反応経路の解明-アポミオグロビンの不正認識についての検討	
江端 博之	廃セルロース・スラッジを利用した浄化石の開発	吉村 忠與 志
坂下 裕一	生ゴミからの塩分抽出に関する研究	
坂下 佳隆	インターネットによるおい発信システムの構築	
真柄 順治	廃セルロースからのグルコースを経由したアルコールの生成	
馬田 理加	[Cr(L-leu)2(L- or D-met)]の合成と光学分割	吉村 芳武 片岡 裕一
八木 祐介		
酒井 邦晃	新規ウエットプロセスによる CoNiFe/p-Si(100)系軟磁性膜の開発	常光 幸美
堀江 寛紀		
中村明日香	ナノめっき炭素繊維強化アルミニウム複合材料の開発	杉森 大助
前田 望	新規キャパシタ用ナノめっき賦活炭素複合材料の開発	
井藤 有美	Pseudomonas s.p. KS3. 2由来新規ポスポリパーゼCに関する研究	高山 勝己
坂口 徹	低温性油脂分解微生物の探索	
牧田 美佐	新規ポスポリパーゼA1の探索及び精製条件の検討	
田中 良典	Flebobacterium 由来有機リン加水分解酵素を細胞表層に発現した酵母の創製	津田 良弘
宮川 聖		
本田 康輔	各種バイオマス資源の有効利用に関する研究～セルロースの糖化とコネリ型菌による有機酸生成～	加藤 敏 野村 栄市
田嶋 マキ	Tripyrrene/a.c-Biladiene 経路を用いたND-アルキルメゾポリフィリンの多段階合成	
吉川 翔	シクロヘキセンの電解エポキシ化	松井 栄樹
藤本 一念		
神佐 澄人	アニオン・ノニオン混合界面活性剤における界面化学的性質	加藤 敏 野村 栄市
高橋 加奈	無電解めっき法による傾斜機能希土系水素吸蔵合金の作成	
野村 浩平	乳化重合における軟水溶性モノマーの移動現象	
山室 幸司	半回分乳化重合法による高分子乳化剤の合成	松井 栄樹
久保 慎弥	メゾ位に硫黄原子を有するカリックスピロールの合成	
櫻田 康浩	安定なポリフィリノーゲンを経由するポリフィリンの合成	
西村 幸子	機能性フタロシアニン色素を用いる蛍光プローブの開発	松井 栄樹
山本志津子	ポリフィリン-フタロシアニン複合系色素の開発	

(出典 学生課)

(分析結果とその根拠理由)

科目取得率の向上傾向、原級留置率や退学率の低下傾向、資格取得者の増加、卒業研究の水準などから判断し、教育の実績や効果が上がっているといえる。

<学士課程>

(観点にかかる状況)

(1) 専攻科修了要件

専攻科の修了要件は、(前出資料5-8-①-1, 別添「専攻科シラバス」03頁)に示されるように、平成17年度修了生からは、本校が定める「環境生産システム工学」教育プログラムの修了要件を満たすことが義務づけられており、この修了要件には学士(工学)の取得が義務づけられている。従って、(資料6-1-②-13)に示した専攻科修了生の学士号取得率は、平成17年度修了生からは100%となる。

(資料 6-1-②-13) 「専攻科修了生の学士号取得率」

専攻科修了生の学士号取得率

修了年度	専攻	系	修了生数	学士号取得者数	取得率
平成12 (2000)	生産システム 工学	機械系	6	6	100.0%
		電気系	3	3	100.0%
		電子情報系	1	1	100.0%
	環境システム 工学	物質系	6	6	100.0%
		環境系	9	9	100.0%
	計		25	25	100.0%
平成13 (2001)	生産システム 工学	機械系	7	6	85.7% *1
		電気系	5	5	100.0%
		電子情報系	3	3	100.0%
	環境システム 工学	物質系	0	0	—
		環境系	7	4	57.1% *2
	計		22	18	81.8%
平成14 (2002)	生産システム 工学	機械系	7	7	100.0%
		電気系	4	4	100.0%
		電子情報系	3	2	66.7% *2
	環境システム 工学	物質系	5	5	100.0%
		環境系	5	5	100.0%
	計		24	23	95.8%
平成15 (2003)	生産システム 工学	機械系	4	4	100.0%
		電気系	7	6	85.7% *1
		電子情報系	8	8	100.0%
	環境システム 工学	物質系	4	4	100.0%
		環境系	9	9	100.0%
	計		32	31	96.9%
平成16 (2004)	生産システム 工学	機械系	9	9	100.0%
		電気系	6	6	100.0%
		電子情報系	4	4	100.0%
	環境システム 工学	物質系	6	6	100.0%
		環境系	4	4	100.0%
	計		29	29	100.0%
総計(平均)			132	126	95.5%

*1：計2名は修了後取得

*2：計4名は未取得で修了

(出典 学生課)

(2) 専攻科修了生が社会から要請される水準の考慮方法

(資料 6-1-②-14) に示したような、平成15年度の技術士一次試験問題に対する専攻科修了時点での解答能力の調査がなされ、専攻科修了生は技術士一次試験をほぼクリアできると判断されている。さらに、技術者教育プログラムとしての認定(前出資料 5-8-①-2, 別添「専攻科シラバス」16頁)は、デザイン能力、コミュニケーション能力もまた社会から要求されている水準以上であることを示している。

(資料 6－1－②－1 4) 「専攻科修了生技術士レベルチェック」

本校専攻科修了生の技術士レベル調査報告書

H16.7.8

物質工学科 小泉貞之

平成 15 年度技術士一次試験をもとに本校の講義レベルと専攻科修了時における学生の実力調査を行った結果をまとめます。

技術士一次試験の問題は、「基礎科目」、「共通科目」、「適性科目」、「専門科目」に分かれています。本校の専攻科を修了しますと現時点でも「共通科目」は免除されます。また、「専門科目」について以前(平成 16 年 3 月)調査しましたところ、本科の 5 年生でも 7 割以上の得点が予想されました。この調査以前に技術士の一次試験を受験した学生に聞きますと、一次試験に対しては「基礎科目」と「適性科目」がキーポイントと教えてくれました。従って、本校教員の講義レベルと専攻科修了学生の実力レベルを調べるために、平成 15 年度技術者一次試験の「基礎科目」と「適性科目」を全教員に配布し、講義レベルと学生の実力レベルについて調査しました。

一次試験の合格基準は、「適性科目」は 15 問必須で 5 割以上、「基礎科目」と「専門科目」がそれぞれ最低 4 割以上、この 2 科目の平均 5 割以上となっています。すなわち、1 割は、「専門科目」で「基礎科目」をカバーできるということです。また、「基礎科目」は 30 問程度出題され、各群(設計計画・情報論理・解析・材料バイオ・技術関連の 5 群)から各 3 問選択(合計 15 問)となっています。従って、合格するには、「適性科目」が 8 問以上、「基礎科目」が 6 問以上(「専門科目」で残りをカバーすると考えて)ということになります。

各科のデータの求め方を説明します。

平成 15 年度技術者一次試験(「基礎科目」及び「適性科目」)の各問に対し、各教員が担当している講義(実験・演習を含む)において、専攻科修了時点で、学生の 8 割以上が正解を得ることができるものを A と記録していただきました。これを 2 ポイントとしました。5 割以上の正解を得ることができるものを B とし、これを 1 ポイントとしました。C については、0.3 ポイントとしました。

各問に対し、合計 4 ポイント以上あれば、実力レベル欄に◎と記載しました。すなわち、2 つの講義等で 8 割以上の解答が予測できると言うことは、正解が得られる可能性が 100% と考えたわけです。同様に 2 ポイント以上であれば、実力レベル欄に○と記載しました。1 ポイント以上を△で記載しました。1 ポイント以下は×としました。

全問対象の得点予想の欄は、◎は完全に解答でき、○は 50% 解答でき、△は 25% 解答できるものとして計算しました。各群 3 問選択した場合の得点予想の欄には、解答できる問題を選択したと仮定して計算しました。

講義レベルについても、同様に行いましたが、予想得点の項には考慮しませんでした。

上のデータをまとめた物が、技術士試験のレベルチェック一覧表です。

各科とも「適性科目」(50%以上であること)については、完全にクリアできると思います。「基礎科目」(40%以上であること。但し、専門科目との合計は 50%以上)については、該当科目に選択科目が含まれていることから、明確には断言できませんがほぼクリアできると考えられます。下の表は、各問題の数をまとめたものですが、同様のことが言えます。

技術士一次試験のレベルチェック一覧 (平成 15 年度)

			M 科	E 科	E I 科	C b 科	C m 科	B 科
基礎科目	一群	設計計画	33%	42%	83%	33%	33%	100%
	二群	情報論理	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	三群	解析	75%	83%	83%	100%	100%	83%
	四群	材料バイオ	67%	83%	83%	100%	100%	67%
	五群	技術関連	50%	67%	67%	83%	83%	100%
平均			73%	83%	83%	83%	83%	90%
適性科目			62%	63%	90%	63%	63%	92%

技術士一次試験の解答能力 (平成 15 年度)

			M 科	E 科	E I 科	C b 科	C m 科	B 科
基礎科目	100% 解答できる問題数		6 問	9 問	10 問	11 問	11 問	12 問
	50% 解答できる問題数		7 問	4 問	5 問	3 問	3 問	3 問
	25% 解答できる問題数		1 問	1 問	0 問	0 問	0 問	0 問
	解答できない問題数		1 問	1 問	0 問	1 問	1 問	0 問
適性科目	100% 解答できる問題数		4 問	5 問	12 問	4 問	4 問	11 問
	50% 解答できる問題数		10 問	8 問	3 問	10 問	10 問	3 問
	25% 解答できる問題数		1 問	2 問	0 問	1 問	1 問	1 問
	解答できない問題数		0 問	0 問	0 問	0 問	0 問	0 問

(出典 JABEE 自己点検報告書 資料編 3－2－1 2 頁)

(3) 専攻科の修了率と退学率

(資料 6-1-②-15) に専攻科の修了率と退学率を示す。進路変更等により平均 14% 程度の学生が退学している。専攻科の修了要件に学士(工学)や TOEIC 400 点相当の取得が義務づけられたことから、平成 17 年度以降の修了生の退学率(未修了率)の増加がやや懸念される。

(資料 6-1-②-15) 「専攻科生の修了率と退学率」

専攻科の各年度入学生の修了率と退学率

入学年度	専攻	系	入学者数	修了者数	退学者数	修了率	退学率
平成12 (2000)	生産システム工学	機械系	7	7		100.0%	0.0%
		電気系	5	5		100.0%	0.0%
		電子情報系	3	3		100.0%	0.0%
	環境システム工学	物質系	2	0	2	0.0%	100.0%
		環境都市系	9	7	2	77.8%	22.2%
	計		26	22	4	84.6%	15.4%
平成13 (2001)	生産システム工学	機械系	7	7		100.0%	0.0%
		電気系	4	3	1	75.0%	25.0%
		電子情報系	3	3		100.0%	0.0%
	環境システム工学	物質系	5	5		100.0%	0.0%
		環境都市系	9	5	4	55.6%	44.4%
	計		28	23	5	82.1%	17.9%
平成14 (2002)	生産システム工学	機械系	4	4		100.0%	0.0%
		電気系	8	7	1	87.5%	12.5%
		電子情報系	8	8		100.0%	0.0%
	環境システム工学	物質系	6	4	2	66.7%	33.3%
		環境都市系	10	9	1	90.0%	10.0%
	計		36	32	4	88.9%	11.1%
平成15 (2003)	生産システム工学	機械系	9	9		100.0%	0.0%
		電気系	8	6	1	75.0%	12.5%
		電子情報系	6	4	2	66.7%	33.3%
	環境システム工学	物質系	7	6	1	85.7%	14.3%
		環境都市系	4	4		100.0%	0.0%
	計		34	29	4	85.3%	11.8%
平成16 (2004)	生産システム工学	機械系	6			0.0%	0.0%
		電気系	4			0.0%	0.0%
		電子情報系	7		1	0.0%	14.3%
	環境システム工学	物質系	3			0.0%	0.0%
		環境都市系	9		1	0.0%	11.1%
	計		29	0	2	0.0%	6.9%
平成12-15年度専攻科入学生累計(率は平均)			124	106	17	85.2%	14.0%

平成15年度入学生(生産システム工学専攻・電気系)が1名休学中のため入学者数と(修了者数+退学者数)は一致しない

修了率=(修了者数/入学者数)×100

退学率=(退学者数/入学者数)×100

(出典 学生課)

(4) 学外研究発表

本校の「環境生産システム工学」教育プログラムの修了要件には、特別研究による成果を外部へ発表することが義務付けられている。（資料 6－1－②－16）に外部発表一覧を示す。

(資料 6－1－②－16) 「専攻科修了生の学外研究発表」

平成16(2004)年度専攻科修了生の学外発表一覧

専攻	氏 名	発表題目	発表機関	発 表 年 月 日	発 表 場 所	左記以外の 各学協会での 学外発表 件数
生産システム工学	天谷 徹	ステッピングモータ駆動システムの低振動を目的とした速度曲線の研究	福井高専 (技術シーズ発表会)	平成16年8月 25日～26日	鯖江ギャラ リー新	1
〃	蟻塚 悠記	工業材料のe-learning教材の開発	〃	〃	〃	
〃	大村 規之	オーロラ発生時のCNAと電離層活動の関連性	〃	〃	〃	
〃	小笠原 貴行	Cu-Sn-黒鉛系複合焼結材料の材料特性に及ぼす黒鉛粒径の影響	〃	〃	〃	1
〃	兼田 知明	携帯電話を持って街に出かけよう！ M-EVENT.NETのご紹介	〃	〃	〃	1
〃	金田 直人	斜板式ピストンポンプ・モータにおけるスリップ軸受の運動特性	〃	〃	〃	1
〃	黒木 修二	クライアント作成補助システムの開発－RoboCupシミュレーションリーグー	〃	〃	〃	
〃	桑原 真二	牧羊犬ロボットシミュレータの開発	〃	〃	〃	
〃	清水 大輔	電源電圧波形が変圧器騒音に与える影響	〃	〃	〃	2
〃	高橋 恵一郎	回転運動を伴って往復運動するピストンとシリンダ間の潤滑解析	〃	〃	〃	
〃	出口 光晴	化学結合から見たランガサイト及び置換型化合物の圧電性能	〃	〃	〃	1
〃	苗田 祐一	自然対流の可視化とシミュレーション	〃	〃	〃	
〃	永田 章子	ビデオカメラを用いた3D動作計測システムの制作	〃	〃	〃	
〃	馬場 孝彰	凍結昇華法による高分子溶液の円管内流れの微視的構造	〃	〃	〃	1
〃	松村 浩司	硬質薄膜のフェムト秒レーザー加工に関する研究	〃	〃	〃	
〃	松本 茜	極細放電管の水銀輸送現象	〃	〃	〃	
〃	森 健太	直列制御型定電圧回路の高効率動作	〃	〃	〃	1
〃	山崎 裕也	三相巻鉄心型変圧器の交流磁気特性	〃	〃	〃	2
〃	吉岡 謙治	量子計算機シミュレータの開発－グローバールのアルゴリズム－	〃	〃	〃	1
環境システム工学	浅井 美由紀	めっきプロセスによる金属ナノ構造材料の創製	〃	〃	〃	1
〃	笈田 智弘	生体試料中のクロムの簡易測定とその応用	〃	〃	〃	2
〃	淡海 陽子	(R)-2-フェニルプロピオン酸メチルに対して高い立体選択性を有する糸状菌由来エステル加水分解酵素の精製	〃	〃	〃	1
〃	大川 拓哉	生命回網と目標生態性の評価について	〃	〃	〃	3
〃	大嶋 利治	スチレンの乳化重合反応における連鎖移動剤の拡散挙動	〃	〃	〃	1
〃	葛葉 俊文	二酸化チタン担持シリカゲルを用いた脱臭装置の開発	〃	〃	〃	
〃	酒井 隆晃	斜面の時系列ハザードマッピングに関する一提案－樹木根系の斜面安定性への影響－	〃	〃	〃	1
〃	塚谷 智章	牡蠣殻を混入した酸性発土の支持力特性	〃	〃	〃	1
〃	中浦 真澄	繊維材料における微生物親和性の試験法の確立	〃	〃	〃	1
〃	中村 宏美	南海トラフ地震を対象とした非被災府県による被災地への支援体制の構築に関する研究	〃	〃	〃	3

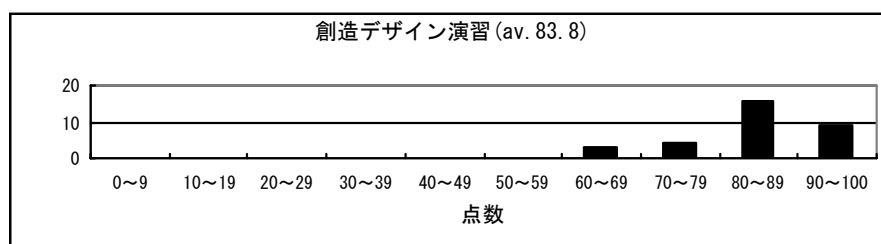
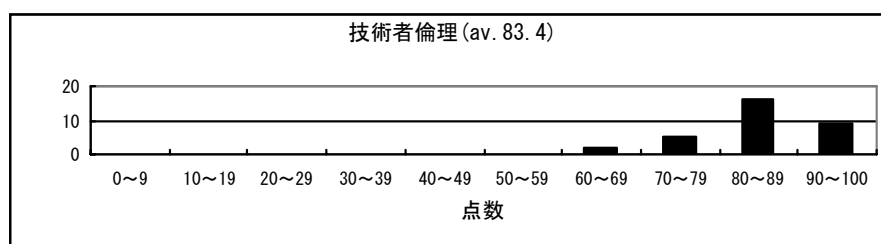
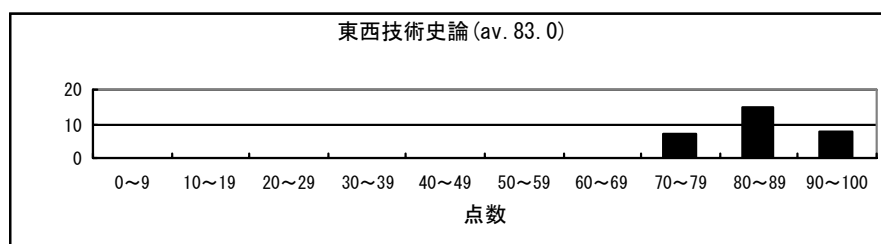
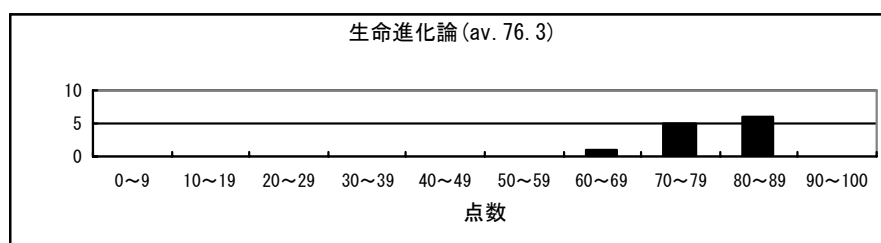
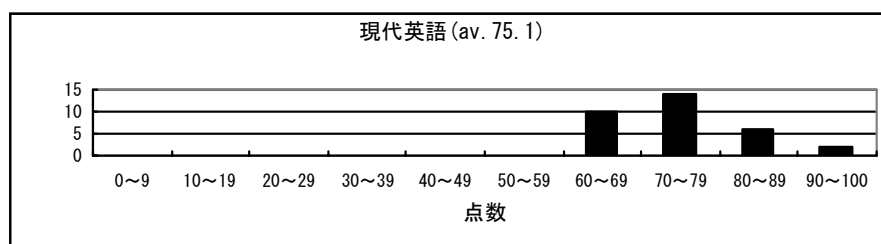
(出典 学生課)

(5) 成績評価の分布

例として、平成16年度専攻科1年生の学年末成績の5科目の10点刻みの分布表（資料6-1-②-17）及び、専攻科生産システム工学1年生の最近3年間の学年末成績の平均点（資料6-1-②-18）を示す。成績は絶対評価であるために、左右対象の分布はしていないが、ほとんどの科目が70点～90点の間に保持されている。

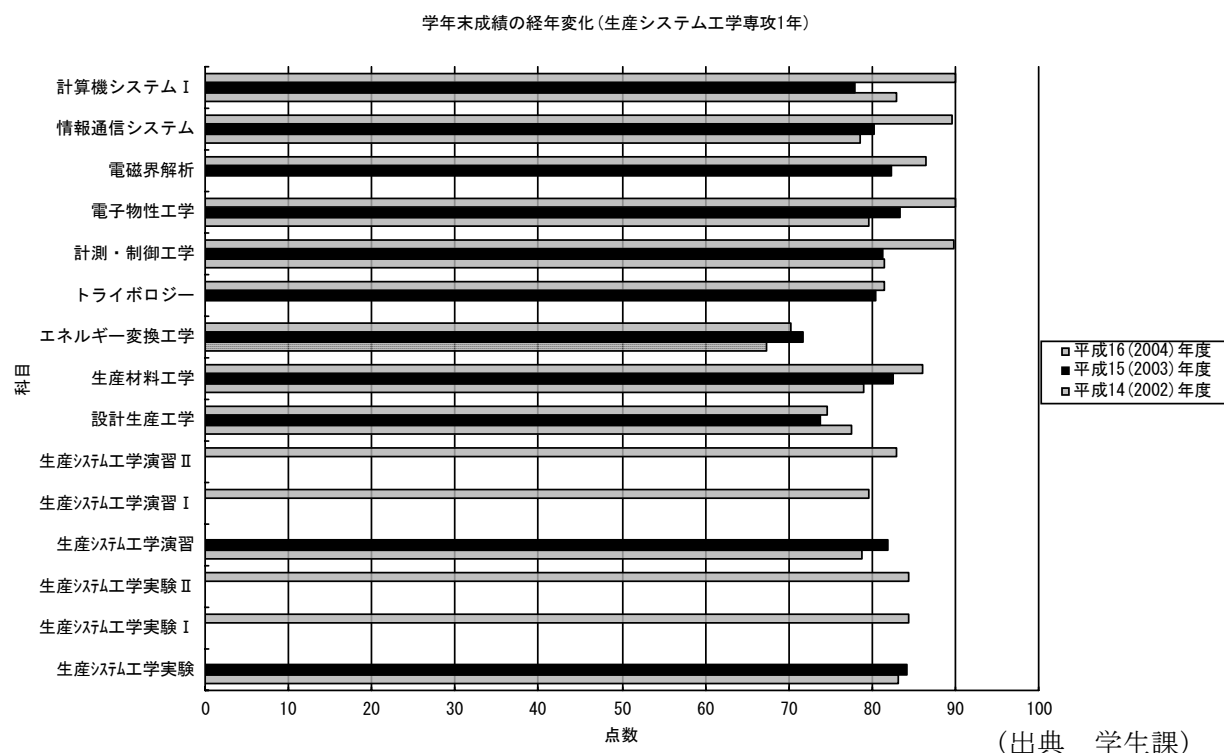
(資料6-1-②-17) 「専攻科成績評価の分布の例」

平成16年度専攻科共通1年(1/3)



(出典 学生課)

(資料 6－1－②－18) 「専攻科の学年末成績の経年変化の例」



(6) インターンシップ

平成17年度から専攻科の修了要件となったインターンシップは、報告会（前出資料5－5－③－3）での審査により合否判定されている。

(7) 特別研究

特別研究の教員1名あたりの指導学生数は1～3名と少人数である。専攻科2年次の4月に（資料6－1－②－19）及び（資料6－1－②－20）に示すような専攻科特別研究中間審査会が行われ、専攻科2年次の2月の研究発表会（資料6－1－②－21）に示すような2月発行の論文集で特別研究を総括している。特別研究は現在（資料6－1－②－22，別添「専攻科シラバス」46頁）の評価シートによる厳正な評価が行われている。専攻科特別研究論文のテーマ一覧を（資料6－1－②－23）に示す。

(資料 6－1－②－19) 「平成 16 年度専攻科特別研究中間発表会のチェックシート」

平成 16 年度
度福井工業高等専門学校
専攻科(環境システム工学)
物質工学系 特別研究中間報告会

プログラム
はじめに
発表順

専攻科長 吉村 忠与志

めっきプロセスによる金属ナノ構造材料の創製
血清中のクロムの簡易測定とその応用
高立体選択的加水分解能を有する新規脂質分解酵素の探索
乳化重合における連鎖移動剤の物質移動現象
二酸化チタン担持シリカゲルを用いた脱臭装置の開発
繊維材料における生物親和性の試験法の確立 ー炭素繊維ー
総評

浅井 美由紀
笈田 智弘
濱海 陽子
大嶋 利治
菅葉 俊文
中浦 真澄
物質工学科主任 松井 修一

会場 専攻科棟 講義室 I (3F)
日時 平成 16 年 4 月 23 日 14:30～
発表時間 15 分
討論時間 5 分
(1 鈴発表終了 1 分前、 2 鈴発表終了、 3 鈴討論終了)
発表形態 パワーポイント (各自で準備すること)

審査項目
報告会における発表および質疑応答状況 (口頭発表を通して報告内容を的確にプレゼンテーションできるか) について、次の各項目で評価する。評価は各項目とも 5 段階で行なう。専攻科 1 年生に対しては、⑥の項目についてのみ評価を行なう。
① 予稿集 (適切に書かれているか)
② 発表の論理的展開 (聴衆の反応を確かめながら、口頭発表を論理的に展開することができたか)
③ 発表時間の適正 (伝えたい内容を精選し、決められた発表時間を守ることができたか)
④ 発表態度 (堂々として相手を分かせようとしているか)
⑤ 質疑応答 1 (聴衆の質疑に対して適切に回答できたか)
⑥ 質疑応答 2 (発表者の主張に対して真摯な態度で疑問点を質問できたか)

平成 16 年 4 月 23 日
福井工業高等専門学校 専攻科(環境システム工学)
物質工学系 特別研究中間報告会 審査評価シート (1/4)

学生氏名

報告会における発表および質疑応答状況(口頭発表を通して報告内容を的確にプレゼンテーションできるか)
① 予稿集(適切に書かれているか) (よい、ややよい・普通・ややわるい・わるい)
② 発表の論理的展開 (聴衆の反応を確かめながら、口頭発表を論理的に展開することができたか) (よい、ややよい・普通・ややわるい・わるい)
③ 発表時間の適正 (伝えたい内容を精選し、決められた発表時間を守ることができたか) (よい、ややよい・普通・ややわるい・わるい)
④ 発表態度(堂々として相手を分かせようとしているか) (よい、ややよい・普通・ややわるい・わるい)
⑤ 質疑応答 1 (聴衆の質疑に対して適切に回答できたか) (よい、ややよい・普通・ややわるい・わるい)
⑥ 質疑応答 2 (発表者の主張に対して真摯な態度で疑問点を質問できたか) (よい、ややよい・普通・ややわるい・わるい)
コメント

学生氏名

① 予稿集(適切に書かれているか) (よい、ややよい・普通・ややわるい・わるい)
② 発表の論理的展開 (聴衆の反応を確かめながら、口頭発表を論理的に展開することができたか) (よい、ややよい・普通・ややわるい・わるい)
③ 発表時間の適正 (伝えたい内容を精選し、決められた発表時間を守ることができたか) (よい、ややよい・普通・ややわるい・わるい)
④ 発表態度(堂々として相手を分かせようとしているか) (よい、ややよい・普通・ややわるい・わるい)
⑤ 質疑応答 1 (聴衆の質疑に対して適切に回答できたか) (よい、ややよい・普通・ややわるい・わるい)
⑥ 質疑応答 2 (発表者の主張に対して真摯な態度で疑問点を質問できたか) (よい、ややよい・普通・ややわるい・わるい)
コメント

審査員署名

(出典 専攻科委員会)

(資料 6－1－②－20) 「平成 17 年度専攻科特別研究中間発表会の案内」

平成 17 年度
専攻科特別研究中間発表会
平成 17 年 4 月 20 日 (木)

生産システム工学専攻
(機械系)
時間: 16:00～17:35
会場: 専攻科棟 3F 講義室 1

No	特別研究題目	学生氏名	指導教員
(1)	公共交通機関と携帯自転車の組み合わせによる移動システムの研究	泉 芳範	井上 清一
(2)	分子動力学法による亀裂生成に関する微視的解析	小泉 貴嗣	芳賀 正和
(3)	PIC を用いたライトレースロボットの制御	佐々木 渉	吉崎 保夫
(4)	生体親和性材料アタイトの作製と物性評価	中本 純平	北浦 守
(5)	円管急縮小部を通る高分子溶液の流れ	藤田 祐介	藤田 克志
(6)	硬質薄膜のフェムト秒レーザープロセッシング	山口 光弘	安丸 尚樹

(電気系)
時間: 15:45～16:45
会場: 専攻科棟 3F セミ3

No	特別研究題目	学生氏名	指導教員
(1)	SrAl ₂ O ₄ :Eu, Dy 蛍光体における光電流の温度依存性	上柳 隆治	北浦 守
(2)	磁束密度が鉄心の磁歪及び騒音に与える影響	小池 啓利	新谷 裕弘
(3)	レーザー光を用いた表面反射による傾斜度検出	田中 正一	原田 望
(4)	多層カーボンナノチューブの電導特性	山本 真実	川本 昂

(電子情報系)
時間: 15:40～
会場: 電子情報工学科棟 3F 講義室 503

No	特別研究題目	学生氏名	指導教員
(1)	コース管理システムの導入と改善	東 裕貴	渡田 昇
(2)	歩行者誘導装置のための汎用 USB デバイスの開発	島田悠一	斉藤 徹
(3)	中世陶磁器の Web データベースシステムの構築	西端祐貴	藤原正敏
(4)	画像処理を用いた眼鏡の試着システム	野沢益未	斉藤 徹

環境システム工学専攻
(物質系)
時間: 15:50～16:50
会場: 専攻科棟 3F 講義室 2

No	特別研究題目	学生氏名	指導教員
(1)	有機リン農薬を細胞表面で分解・検知する新規バイオセンサーの構築	北口哲也	高山勝己
(2)	電気分解法と微生物分解法を用いた有色染料廃液の分解	高橋尚也	高山勝己
(3)	シクロヘキセンの電解エポキシ化	坪川 翼	津田良弘

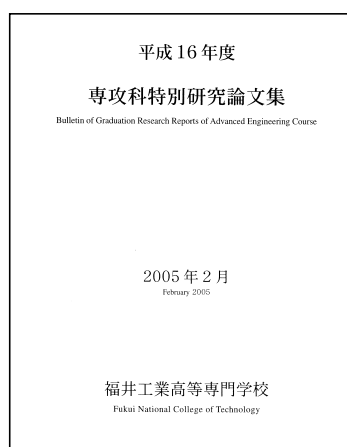
(環境都市系)
時間: 15:40～17:15
会場: 環境都市工学科棟 3F 演習室

No	特別研究題目	学生氏名	指導教員
(1)	地形測量システムによる三次元都市空間モデルの構築	岡島裕樹	辻野和彦
(2)	平成 16 年度福井豪雨災害の洪水流解析について	岡田和之	広部英一
(3)	武生市におけるホテルの生息調査及びその評価	加藤大介	奥村友司
(4)	直行矩形格子を用いた流体中を移動する物体の数値計算法	菊 雅美	田安正茂
(5)	破壊力学への個別要素法の適用	高橋圭太	阿部孝弘
(6)	交流電の構築	西坂友大	武井幸久
(7)	城壁の変位監視の可能性について	吉田達哉	辻子裕二

(出典 専攻科委員会)

(資料 6-1-②-21)

「平成 16 年度専攻特別研究論文集の表紙」



(出典 平成 16 年度専攻特別研究論文集)

(資料 6-1-②-23) 「専攻科特別研究のテーマ一覧(平成 16 年度)」

専攻科特別研究(平成16年度)
生産システム工学専攻

学生氏名	特別研究テーマ	指導教員
天谷 徹	低振動化を目的としたステッピングモータの速度曲線の研究	吉崎 保夫
蟻塚 悠記	工業材料のe-learning機能付加デジタル図鑑の開発	安丸 尚樹
大村 規之	オーロラ発生時のCNAと電離層活動の関連性	前川 公男
小笠原真行	Cu-Sn-黒鉛焼結材料の機械的性質と摩擦摩耗特性に及ぼす黒鉛サイズと添加量の影響	加藤 寛敬
兼田 知明	携帯電話を用いた社会学習支援のためのWebアプリケーションの構築	大久保 茂
金田 直人	斜板式ピストンポンプ・モータにおけるスリップ軸受の運動特性	田中嘉津彦
黒木 修二	RoboCupシミュレーションリーグにおけるクライアント作成補助システムの開発	青山 義弘
桑原 真二	牧羊犬ロボットシミュレータの開発	青山 義弘
清水 大輔	電圧波形が変圧器鉄心の磁歪および騒音に与える影響	新谷 邦弘
出口 光晴	量子材料設計による材料の機能性の予見～化学結合から見たランガイと置換型化合物の圧電性能～	北浦 守
高橋恵一郎	回転運動を伴って往復運動するピストンとシリンダ間摺動部の潤滑解析	田中嘉津彦
苗田 祐一	非圧縮性流体内に発生する自然対流の可視化と数値解析	芳賀 正和
永田 章子	デジタルビデオカメラを用いた3D動作計測システム	井上 清一
馬場 孝彰	凍結昇華法による円管内流れの高分子溶液の微視的構造のフラクタル解析	藤田 克志
松村 浩司	硬質薄膜のフェムト秒レーザープロセス	安丸 尚樹
松本 茜	極細水銀放電管における水銀スペクトルの温度特性	井上 昭浩
森 健太	直列制御型定電圧回路の高効率動作	原田 望
山崎 裕也	三相巻鉄心変圧器における素材特性と磁気特性	新谷 邦弘
吉岡 謙治	量子計算機シミュレータの開発	下条 雅史

環境システム工学専攻

学生氏名	特別研究テーマ	指導教員
浅井美由紀	めっきプロセスによる金属ナノ構造材料の創製	常光 幸美
笈田 智弘	黒鉛炉原子吸光法による人血清中の微量クロムの簡易的定量法の確立	小泉 貞之
淡海 陽子	2-フェニルプロピオン酸メチルに対して(R)-選択的加水分解能を有する新規エステラーゼの探索と精製	杉森 大助
大川 拓哉	目標生態性の設定と小動物を指標とする生態性評価の方法	武井 幸久
大嶋 利治	ステレンの乳化重合に及ぼす連鎖移動剤の溶解度の影響	加藤 敏
葛葉 俊文	二酸化チタン担持シリカゲルを用いた脱臭装置の開発	吉村忠與志
塚谷 智草	粉碎した牡蠣殻と安定剤とを混合した酸性土の支持力特性	山田 幹雄
酒井 隆晃	斜面の時系列ハザードマッピングに関する一考察ー樹木根系の斜面安定性への影響ー	辻子 祐二
中浦 真澄	繊維材料における生物親和性の試験法の確立	吉村忠與志
中村 宏美	南海トラフ地震を対象とした非被災府県による被災地への支援体制の構築に関する研究	吉田 雅穂

(出典 学生課)

(分析結果とその根拠理由)

平成 16 年度修了生の中で、「環境生産システム工学」教育プログラムを修了した専攻科修了生は J A B E E による技術者教育プログラム修了生として認定されている。また、学外研究発表、学士号取得率、特別研究の水準から判断して、教育の実績や効果が上がっているといえる。

観点 6－1－③： 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

＜準学士課程＞

（観点に係る状況）

本科卒業時の就職，進学状況（例）を（資料 6－1－③－1）～（資料 6－1－③－4）に示す。

（資料 6－1－③－1）「本科卒業生の進路(平成 16 年度)」

進路一覧(本科) (5/5)

年度	学科 進路	機械工学科	電気工学科	電子情報工学科	物質工学科	環境都市工学科
平成 16 (2004)	就職	橋本機工（株）	レンゴー(株)金津工場	新ディ・エヌ・ビー・メディアクリエイト	日華化学(株)	北陸エースコン（株）
		松下電工（株）	倉茂電工(株)	アイコム（株）	ヒット工業（株）	福井県職員
		西日本旅客鉄道（株）	レンゴー（株）武生工場	江守商事(株)	ハニー化成（株）	(株) 辻広組
		(株) 滋賀山下	(株) 滋賀山下	オリオン電機（株）	日東電工（株）	(株) 青武コンサルタント
		小島プレス工業（株）	(株) 柿本商会	デンソーテクノ（株）	清川メッキ工業(株)	(株) 豊栄建設
		花王（株）	(株) ソディックプラスチック	京セラ S L C テクノロジー（株）	(株) 豊田中央研究所	滋賀県警察官
		本田技研工業（株）	三洋化成工業(株)	法務省福井刑務所 刑務官	(株) リコー福井事業所	(有) イマジン・ラボ
		(株) J A L 7ビテック	関西電力（株）	ソニーイーエムシーエス（株） 幸田テック	ハッポー化学工業（株）	西田建設（株）
		三菱重工業（株）名古屋機務推進/ATM製作所	中部電力（株）	(株) アルメックス	岩谷理化株式会社	(株) 高野組
		(株) オナガメガネ	(株) 鯖江村田製作所	東邦電気（株）	日華化学(株)	木原建設（株）
		日産テクノ（株）	(株) 松浦機械製作所	ダイワボウ情報システム（株）	酒井化学工業株式会社	J A 越前丹生
		東エシャッター（株）	(株) 日新システムズ	(株) 豊田中央研究所	(株) ヴァンドームヤマダ	厚生労働省職員
		川崎重工業（株）	(株) 福井村田製作所	パイオニア（株）	大阪シーリング印刷(株)	滋賀県職員
		(株) 森精機製作所	(株) リコー福井事業所	新生電子（株）		(株) 北都組
		(株) エクセディ	(株) エクセディ	(株) 京装コンピューター		坂川建設（株）
		(株) 吉野工業所	(株) サンルックス	ソニーイーエムシーエス（株） 長野テック		マルイチセーリング（株）
		(株) 日産ディーズ 技術研究所	オリオン電機(株)	アドソル日進(株)		南越建設工業（株）
		(株) J A L 航空機整備成田	総合警備保障(株)	株式会社テクニカフクイ		国土交通省職員（北陸地方整備局）
			京セラ（株） 滋賀蒲生工場	森永北陸乳業（株）		(株) 辻広組
			(株) フォース	ソニーイーエムシーエス（株） 小見川テック		(株) ミテック
				江守商事（株）		轟産業（株）
				日本放送協会		福井県職員
				マルツ電波（株）		第一技術開発（株）
				(株) 半導体エネルギー研究所		
	進学	岡山大学理学部	金沢大学工学部	金沢大学工学部	金沢大学工学部	福井大学工学部
		金沢大学工学部	金沢大学工学部	金沢大学工学部	金沢大学工学部	豊橋技術科学大学工学部
		金沢大学工学部	金沢大学工学部	九州工業大学情報工学部	岐阜大学経済学部	長岡技術科学大学工学部
		京都大学工学部	福井大学工学部	筑波大学第三学群	神戸大学農学部	長岡技術科学大学工学部
		神戸大学工学部	福井大学工学部	筑波大学第三学群	広島大学工学部	福井工業高等専門学校専攻科
		福井大学工学部	福井大学工学部	電気通信大学電気通信学部	広島大学理学部	福井工業高等専門学校専攻科
		福井大学工学部	福井大学工学部	福井大学工学部	福井大学工学部	福井工業高等専門学校専攻科
		福井大学工学部	豊橋技術科学大学工学部	三重大学工学部	北海道大学農学部	福井工業高等専門学校専攻科
		山口大学工学部	長岡技術科学大学工学部	豊橋技術科学大学工学部	滋賀県立大学工学部	福井工業高等専門学校専攻科
		豊橋技術科学大学工学部	長岡技術科学大学工学部	豊橋技術科学大学工学部	豊橋技術科学大学工学部	福井工業高等専門学校専攻科
		豊橋技術科学大学工学部	長岡技術科学大学工学部	長岡技術科学大学工学部	豊橋技術科学大学工学部	福井工業高等専門学校専攻科
		豊橋技術科学大学工学部	長岡技術科学大学工学部	富山商船高等専門学校専攻科	豊橋技術科学大学工学部	
		長岡技術科学大学工学部	関西大学総合情報学部	福井工業高等専門学校専攻科	長岡技術科学大学工学部	
		長岡技術科学大学工学部	福井工業高等専門学校専攻科	福井工業高等専門学校専攻科	長岡技術科学大学工学部	
		東京工業高等専門学校専攻科	福井工業高等専門学校専攻科	福井工業高等専門学校専攻科	長岡技術科学大学工学部	
		福井工業高等専門学校専攻科	福井工業高等専門学校専攻科	福井工業高等専門学校専攻科	福井工業高等専門学校専攻科	
		福井工業高等専門学校専攻科	福井工業高等専門学校専攻科		福井工業高等専門学校専攻科	
		福井工業高等専門学校専攻科			福井工業高等専門学校専攻科	
		福井工業高等専門学校専攻科			福井工業高等専門学校専攻科	
		福井工業高等専門学校専攻科			福井工業高等専門学校専攻科	
					福井工業高等専門学校専攻科	
	その他		福井文化服装学院	福井県鯖江土木事務所（非常勤）	ESP ミュージカルアカデミー	大阪観光専門学校
			大阪大学付属歯科技工士学校	未定	長岡日赤看護専門学校	大原情報ビジネス専門学校・福井校
			日本工学院八王子専門学校	日栄学園 総合・オートモビル・ファッション	天谷調理師専門学校	大原情報ビジネス専門学校・福井校

（出典 学生課）

(資料 6-1-③-2) 「本科卒業生の進路の内訳」

平成12(2000)年度 本科卒業生の進路

(人)

学科 \ 進路	就職 ()内は割合	進学 ()内は割合	その他 ()内は割合	計 ()内は割合
機械工学科	21 (57%)	15 (40%)	1 (3%)	37 (100%)
電気工学科	21 (50%)	18 (43%)	3 (7%)	42 (100%)
電子情報工学科	27 (61%)	13 (30%)	4 (9%)	44 (100%)
物質工学科	14 (42%)	18 (55%)	1 (3%)	33 (100%)
環境都市工学科	24 (60%)	13 (33%)	3 (7%)	40 (100%)
計 : ()内は割合	107 (55%)	77 (39%)	12 (6%)	196 (100%)

平成13(2001)年度 本科卒業生の進路

(人)

学科 \ 進路	就職 ()内は割合	進学 ()内は割合	その他 ()内は割合	計 ()内は割合
機械工学科	22 (61%)	14 (39%)	0 (0%)	36 (100%)
電気工学科	23 (56%)	16 (39%)	2 (5%)	41 (100%)
電子情報工学科	16 (46%)	15 (43%)	4 (11%)	35 (100%)
物質工学科	15 (45%)	17 (52%)	1 (3%)	33 (100%)
環境都市工学科	21 (50%)	17 (41%)	4 (9%)	42 (100%)
計 : ()内は割合	98 (55%)	79 (42%)	11 (6%)	187 (100%)

平成14(2002)年度 本科卒業生の進路

(人)

学科 \ 進路	就職 ()内は割合	進学 ()内は割合	その他 ()内は割合	計 ()内は割合
機械工学科	16 (44%)	18 (50%)	2 (6%)	36 (100%)
電気工学科	14 (42%)	17 (52%)	2 (6%)	33 (100%)
電子情報工学科	13 (38%)	19 (56%)	2 (6%)	34 (100%)
物質工学科	17 (44%)	20 (51%)	2 (5%)	39 (100%)
環境都市工学科	20 (51%)	13 (33%)	6 (16%)	39 (100%)
計 : ()内は割合	80 (44%)	87 (48%)	14 (8%)	181 (100%)

平成15(2003)年度 本科卒業生の進路

(人)

学科 \ 進路	就職 ()内は割合	進学 ()内は割合	その他 ()内は割合	計 ()内は割合
機械工学科	19 (50%)	19 (50%)	0 (0%)	38 (100%)
電気工学科	27 (69%)	12 (31%)	0 (0%)	39 (100%)
電子情報工学科	18 (51%)	15 (43%)	2 (6%)	35 (100%)
物質工学科	15 (48%)	16 (52%)	0 (0%)	31 (100%)
環境都市工学科	20 (47%)	15 (36%)	7 (17%)	42 (100%)
計 : ()内は割合	99 (53%)	77 (42%)	9 (5%)	185 (100%)

平成16(2004)年度 本科卒業生の進路

(人)

学科 \ 進路	就職 ()内は割合	進学 ()内は割合	その他 ()内は割合	計 ()内は割合
機械工学科	18 (47%)	20 (53%)	0 (0%)	38 (100%)
電気工学科	20 (50%)	17 (43%)	3 (7%)	40 (100%)
電子情報工学科	24 (56%)	16 (37%)	3 (7%)	43 (100%)
物質工学科	13 (35%)	21 (57%)	3 (8%)	37 (100%)
環境都市工学科	23 (62%)	11 (30%)	3 (8%)	37 (100%)
計 : ()内は割合	98 (50%)	85 (44%)	12 (6%)	195 (100%)

(出典 学生課)

(資料 6－1－③－3) 「本科卒業生の就職先の産業別内訳」

就職先(本科)の産業別内訳

機械工学科	卒業年度					計
	平成12 (2000)	平成13 (2001)	平成14 (2002)	平成15 (2003)	平成16 (2004)	
林業・鉱業						0
建設業						0
製造業	19	20	12	19	15	85
電気・ガス・水道		1				1
運輸・通信・報道						0
卸売・小売業						0
金融・保険業						0
サービス業、ソフトウェア、エンジニアリング、その他	1	1	4		3	9
公務員	1					1
自営業						0
計	21	22	16	19	18	96

物質工学科	卒業年度					計
	平成12 (2000)	平成13 (2001)	平成14 (2002)	平成15 (2003)	平成16 (2004)	
林業・鉱業						0
建設業		1				1
製造業	13	14	15	14	12	68
電気・ガス・水道			1			1
運輸・通信・報道						0
卸売・小売業						0
金融・保険業						0
サービス業、ソフトウェア、エンジニアリング、その他			1		1	2
公務員	1			1		2
自営業						0
計	14	15	17	15	13	74

電気工学科	卒業年度					計
	平成12 (2000)	平成13 (2001)	平成14 (2002)	平成15 (2003)	平成16 (2004)	
林業・鉱業						0
建設業	1					1
製造業	12	15	7	15	14	63
電気・ガス・水道	4	6	1	3	2	16
運輸・通信・報道	2		2	5		9
卸売・小売業						0
不動産業				1		1
金融・保険業						0
サービス業、ソフトウェア、エンジニアリング、その他	1	1	4	3	4	13
公務員		1	1			2
自営業		1				1
計	20	24	15	27	20	106

環境都市工学科	卒業年度					計
	平成12 (2000)	平成13 (2001)	平成14 (2002)	平成15 (2003)	平成16 (2004)	
林業・鉱業	1					1
建設業	8	6	4	7	10	35
製造業	3	2				5
電気・ガス・水道						0
運輸・通信・報道	2	1	4	1		8
卸売・小売業						0
金融・保険業				1		1
サービス業、ソフトウェア、エンジニアリング、その他	5	6	7	5	7	30
公務員	5	4	7	4	6	26
自営業		2		2		4
計	24	21	22	20	23	110

電子情報工学科	卒業年度					計
	平成12 (2000)	平成13 (2001)	平成14 (2002)	平成15 (2003)	平成16 (2004)	
林業・鉱業						0
建設業						0
製造業	11	7	3	9	13	43
電気・ガス・水道		1				1
運輸・通信・報道	3	1		1		5
情報通信業				5	6	11
卸売・小売業						0
金融・保険業						0
サービス業、ソフトウェア、エンジニアリング、その他	12	7	10	2	5	36
公務員	1					1
自営業						0
計	27	16	13	17	24	97

(出典 学生課)

(資料 6 - 1 - ③ - 4) 「本科卒業生の進学先の内訳」

進学先(本科)の内訳

年度	学科	進学者総数	進学先			
			大学3年編入		高専専攻科	
			人数	率	人数	率
平成12 (2000)	機械工学科	15	9	60%	6	40%
	電気工学科	18	14	78%	4	22%
	電子情報工学科	13	11	85%	2	15%
	物質工学科	18	13	72%	5	28%
	環境都市工学科	13	7	54%	6	46%
平成13 (2001)	機械工学科	14	10	71%	4	29%
	電気工学科	16	9	56%	7	44%
	電子情報工学科	15	7	47%	8	53%
	物質工学科	17	11	65%	6	35%
	環境都市工学科	17	7	41%	10	59%
平成14 (2002)	機械工学科	18	9	50%	9	50%
	電気工学科	17	9	53%	8	47%
	電子情報工学科	19	12	63%	7	37%
	物質工学科	20	13	65%	7	35%
	環境都市工学科	13	7	54%	6	46%
平成15 (2003)	機械工学科	19	13	68%	6	32%
	電気工学科	12	8	67%	4	33%
	電子情報工学科	15	7	47%	8	53%
	物質工学科	15	12	80%	3	20%
	環境都市工学科	15	5	33%	10	67%
平成16 (2004)	機械工学科	20	14	70%	6	30%
	電気工学科	17	13	76%	4	24%
	電子情報工学科	16	11	69%	5	31%
	物質工学科	21	15	71%	6	29%
	環境都市工学科	11	4	36%	7	64%
計(率は平均)		404	250	61%	154	39%

(出典 学生課)

(分析結果とその根拠理由)

卒業生の進路の割合は、就職が平均 51%, 大学 3 年編入学や高専専攻科への進学が平均 43%, その他(専門学校や短期大学を含め)が平均 6%である。その他の進路の中には進路未定者が年に数名含まれるが、就職・進学・その他(進路未定者を除く)の総計では 98%であり、進路の決定率は高い。就職先の産業別の内訳は、機械工学科・電気工学科・物質工学科では製造業が、電子情報工学科では製造業とサービス業が、環境都市工学科では建設業、サービス業、公務員が多く、学科の特徴を表しており、教育の効果や成果が上がっているといえる。進学先の内訳は、大学 3 年次編入学が約 60%, 高専専攻科(3名を除いて本校専攻科)が約 40%であり、進学先としては本校の専攻科が一番多く、本科と専攻科の連携が図られていることを示している。

<学士課程>

(観点に係る状況)

専攻科修了時の就職、進学状況を(資料 6 - 1 - ③ - 5) から(資料 6 - 1 - ③ - 7) に示す。

(資料 6 - 1 - ③ - 5) 「専攻科修了生の進路」

進路一覧(専攻科)							
年度	専攻 進路	生産システム工学専攻	環境システム工学専攻	年度	専攻 進路	生産システム工学専攻	環境システム工学専攻
平成12 (2000)	就職	㈱東芝プロセスソフトウェア	ニチレキ㈱	平成15 (2003)	就職	(株)ジークス	酒井化学工業(株)
		鐘淵化学工業㈱	㈱ニコー光学			(株)アートテクノロジー	自営
		㈱メイテック	ミユヤ㈱			サンテクノ(株)	(株) 銭高組
		ソニー幸田㈱	福井県庁			(株)山岸	(株) ベンチャービジネス研究所
		㈱福井村田製作所	(社)近畿建設協会			シミス工業(株)	フジオーネ・テクノ・ソリューションズ(株)
			㈱福井村田製作所			(株)高木製作所	北陸エースコン工業(株)
			グリーン産業㈱			テクノートラボ(株)	(株) 帝國コンサルタント
			㈱クオードコーポレーション			(株)ハタシ	(株)キミコン
			日本ユニカー㈱			アスタ(株)	ナチュラルコンサルタント(株)
			福井山田化学工業㈱			(株)カスマ	瓦勝
			グリーンシエルター㈱			江守商事(株)	
						(株)ネオテクノ	
	進学	福井大学大学院	金沢大学大学院		進学	(株)フォース	
		京都工芸繊維大学大学院	金沢大学大学院				北陸先端科学技術大学院大学
		豊橋技術科学大学大学院	福井大学大学院				福井大学 大学院
		北陸先端科学技術大学院大学					富山県立大学 大学院
		長岡技術科学大学大学院					
平成13 (2001)	就職	盟友技研㈱	㈱高野組	平成16 (2005)	就職	(株)テクニカフクイ	株式会社ダイエイ
		光精工㈱	自営			(株)大ー商会	株式会社帝国コンサルタント
		オンザエッチ	中部興行㈱			(株)フォース	塩野フィネス(株) 福井事業所
		塩エンジニアリング				(株)ソディックプラスチック	フクビ化学工業株式会社
		J A 越前たけふ				(株)フォース	田中建設株式会社
		島津メクテム㈱				浜本テクニカル(株)	株式会社道端組
		倉茂電工㈱				労働基準監督官	酒井化学工業株式会社
	進学	ヤマハオートセンター			進学	(株)サーフボード	株式会社ホリカワ
		自営				(株)日産ディーゼル技術研究所	株式会社創造科学研究所
		奈良先端科学技術大学院大学	横浜国立大学大学院			日新電機(株)	
		富山県立大学大学院				北陸先端科学技術大学院大学	福井大学大学院
	その他	福井大学大学院				北陸先端科学技術大学院大学	
		豊橋技術科学大学大学院				北陸先端科学技術大学院大学	
		福井工業高等専門学校 研究生	福井工業高等専門学校 研究生			金沢大学大学院	
平成14 (2002)	就職	デジタルハリウッド(専門学校)	大阪外語専門学校			福井大学大学院	
					進学	京都工芸繊維大学大学院	
						福井大学大学院	
						福井大学大学院	
						福井大学大学院	
						福井大学大学院	
						福井大学大学院	
						福井大学大学院	
						福井大学大学院	
						福井大学大学院	
	進学	福井大学大学院工学研究科	福井大学大学院工学研究科			福井大学大学院	
		北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科	福井大学大学院工学研究科			福井大学大学院	
		金沢大学大学院自然科学研究科	福井大学大学院工学研究科			福井大学大学院	
						福井大学大学院	
	その他	山脇美術専門学校	東京アカデミー札幌校			福井大学大学院	
		福井工業高等専門学校 研究生	福井工業高等専門学校 研究生			福井大学大学院	

(出典 学生課)

(資料 6 - 1 - ③ - 6) 「専攻科修了生の就職先の産業別内訳」

就職先(専攻科)の産業別内訳

専攻科	修了年度					計
	平成12 (2000)	平成13 (2001)	平成14 (2002)	平成15 (2003)	平成16 (2004)	
林業・鉱業						0
建設業	5	1	1	2	3	12
製造業	9	4	8	5	10	36
電気・ガス・水道						0
情報通信業				4		4
運輸業				2		2
卸売・小売業						0
金融・保険業						0
サービス業、ソフトウェア、エンジニアリング、その他	1	5	4	8	5	23
公務員	2		1		1	4
自営業		2				2
計	17	12	14	21	19	83

(出典 学生課)

(資料 6－1－③－7) 「専攻科修了生の進路の内訳」

平成12(2000)年度 専攻科修了生の進路 (人)

専攻 \ 進路	就職 ()内は割合	進学 ()内は割合	その他 ()内は割合	計 ()内は割合
生産システム工学	5 (50%)	5 (50%)	0 (0%)	10 (100%)
環境システム工学	12 (80%)	3 (20%)	0 (0%)	15 (100%)
計 : ()内は割合	17 (68%)	8 (32%)	0 (0%)	25 (100%)

平成13(2001)年度 専攻科修了生の進路 (人)

専攻 \ 進路	就職 ()内は割合	進学 ()内は割合	その他 ()内は割合	計 ()内は割合
生産システム工学	9 (60%)	4 (27%)	2 (13%)	15 (100%)
環境システム工学	3 (43%)	1 (14%)	3 (43%)	7 (100%)
計 : ()内は割合	12 (54%)	5 (23%)	5 (23%)	22 (100%)

平成14(2002)年度 専攻科修了生の進路 (人)

専攻 \ 進路	就職 ()内は割合	進学 ()内は割合	その他 ()内は割合	計 ()内は割合
生産システム工学	9 (64%)	3 (22%)	2 (14%)	14 (100%)
環境システム工学	5 (50%)	3 (30%)	2 (20%)	10 (100%)
計 : ()内は割合	14 (58%)	6 (25%)	4 (17%)	24 (100%)

平成15(2003)年度 専攻科修了生の進路 (人)

専攻 \ 進路	就職 ()内は割合	進学 ()内は割合	その他 ()内は割合	計 ()内は割合
生産システム工学	13 (68%)	4 (21%)	2 (11%)	19 (100%)
環境システム工学	10 (77%)	3 (23%)	0 (0%)	13 (100%)
計 : ()内は割合	23 (72%)	7 (22%)	2 (6%)	32 (100%)

平成16(2004)年度 専攻科修了生の進路 (人)

専攻 \ 進路	就職 ()内は割合	進学 ()内は割合	その他 ()内は割合	計 ()内は割合
生産システム工学	10 (53%)	9 (47%)	0 (0%)	19 (100%)
環境システム工学	9 (90%)	1 (10%)	0 (0%)	10 (100%)
計 : ()内は割合	19 (66%)	10 (34%)	0 (0%)	29 (100%)

(出典 学生課)

(分析結果とその根拠理由)

修了生の進路の割合は、就職が平均 64%、大学院への進学が平均 27%、その他が平均 9%である。その他の進路の中には進路未定者はおらず、進路決定率は 100%である。就職先を産業別で見ると、製造業が多く、次いで、サービス業、建設業であり、各専攻の特徴を示しており、教育の効果や成果が上がっているといえる。

観点 6－1－④： 学生が行う学習達成度評価等から判断して、学校の意図する教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

学生による授業評価を初めて全校挙げて実施したのは平成 13 年 2 月であり、その後も継続的に行われており、授業アンケートに対する担当教員のコメントを載せ平成 14 年度分と平成 15 年度前期分（前出資料 5－2－①－13）～（前出資料 5－2－①－17）については冊子としてまとめられ、この冊子を学生は各教室や図書館で閲覧することができる。

(分析結果とその根拠理由)

授業アンケートが継続的に行われており、そのなかに科目の目標に対する学生からの達成度評価項目がある。教員は達成度を年々向上させる改善をおこなっているが、向上しているかどうかの学校全体での評価は現在行われていない。このようなことから、教育の効果が上がっているかについては、授業アンケートからの結果からは判断できていない。

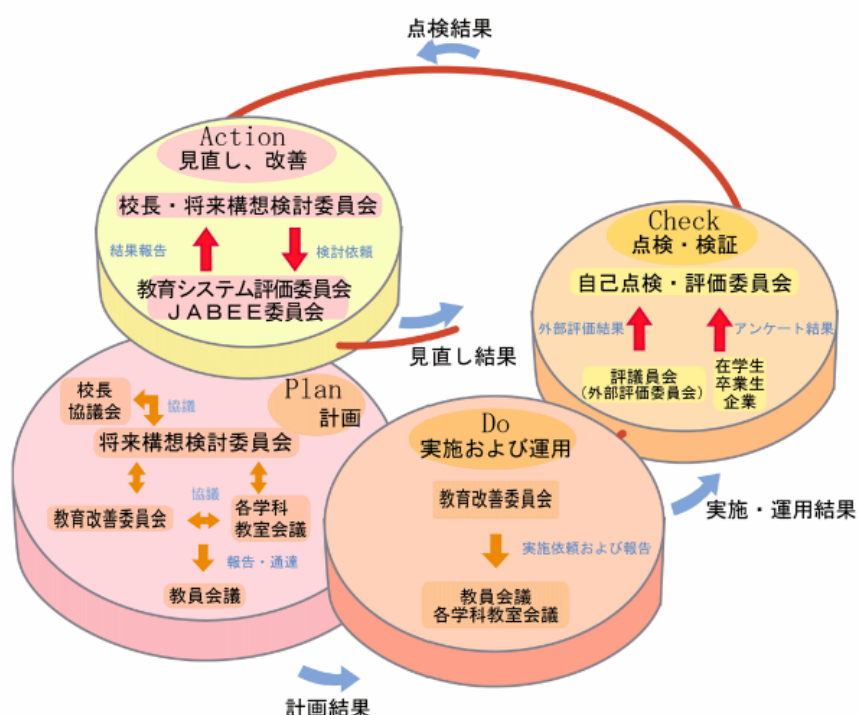
観点 6－1－⑤： 卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。
また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

本校の教育の達成度評価に関する教育点検・改善システムは（資料 6－1－⑤－1）～（資料 6－1－⑤－7）及び（前出資料 6－1－①－2）に示すような構成となっている。卒業（修了）生対象のアンケートが平成 15 年 7 月及び平成 16 年 9 月に実施されている。また、（資料 6－1－⑤－8）～（資料 6－1－⑤－10）のように、平成 17 年 5～6 月に平成 14 年度及び 15 年度卒業（修了）生（約 400 名に関し、約 200 の企業・大学に対して）に対する教育達成度アンケートが実施された。

（資料 6－1－⑤－1） 「教育点検・改善システム(達成度評価)」

福井高専 教育点検・改善システム（達成度評価）



（出典 ウェブページ「JABEE への取組」）

〔資料 6－1－⑤－2〕 「福井工業高等専門学校将来構想検討委員会規則」

第 1 編 規程・内規 (福井工業高等専門学校将来構想検討委員会規則)	
○福井工業高等専門学校将来構想検討委員会規則	
(平成元年 1 月 19 日) 規 程 第 1 号	
改正 平成 3 年 2 月 21 日規程第 1 号 平成 3 年 10 月 17 日規則第 6 号 平成 10 年 2 月 17 日規則第 4 号 平成 14 年 10 月 24 日規則第 1 号 平成 16 年 4 月 8 日規則第 14 号	
(設置)	
第 1 条 本校に、福井工業高等専門学校内部組織規則 (昭和 54 年規則第 2 号) 第 2 条の 2 に基づき、将来構想検討委員会 (以下「委員会」という。) を置く。	
(目的)	
第 2 条 委員会は、本校の将来を展望した方及びそれに即した施設設備の整備について調査審議する。	
(組織)	
第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。	
(1) 校長	
(2) 主事	
(3) 専攻科長	
(4) 学科 (教室) 主任	
(5) 図書館長	
(6) 総合情報処理センター長	
(7) 先進技術教育研究センター長	
(8) 教育研究支援センター長	
(9) 事務部長	
(委員長)	
第 4 条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。	
(専門部会)	
第 5 条 第 2 条の審議事項に関する専門的な事項を調査審議するため、委員会に専門部会を置くことができる。	
2 専門部会は、その任務が終了したときに解散するものとする。	
100	D 【福井高専 III】 100

第 1 編 規程・内規 (福井工業高等専門学校将来構想検討委員会規則)	
(既設の各委員会への諮問)	
第 6 条 委員会は、必要に応じ、本校既設の各委員会に諮問することができる。	
(庶務)	
第 7 条 委員会の庶務は、庶務課が処理する。	
附 則	
この規程は、平成元年 1 月 19 日から施行する。	
附 則 (平成 3 年 2 月 21 日改正)	
この規程は、平成 3 年 4 月 1 日から施行する。	
附 則 (平成 3 年 10 月 17 日改正)	
1 この規則は、平成 3 年 10 月 17 日から施行し、平成 3 年 7 月 25 日から適用する。	
2 この規則施行の際、現に設置されている小委員会は、この規則により設置された専門委員会とみなす。	
附 則 (平成 10 年 2 月 17 日改正)	
この規則は、平成 10 年 4 月 1 日から施行する。	
附 則 (平成 14 年 10 月 24 日改正)	
この規則は、平成 14 年 10 月 24 日から施行する。	
附 則 (平成 16 年 4 月 8 日改正)	
この規則は、平成 16 年 4 月 8 日から施行し、平成 16 年 4 月 1 日から適用する。	
101 (102)	D 【福井高専 III】 101 (101)

(出典 福井工業高等専門学校 規則集 1 0 0 頁)

〔資料 6－1－⑤－3〕 「福井工業高等専門学校教育改善委員会規則」

第 1 編 規程・内規 (福井工業高等専門学校教育改善委員会規則)	
○福井工業高等専門学校教育改善委員会規則	
(平成 15 年 5 月 22 日) 規 則 第 5 号	
(設置)	
第 1 条 本校に、本校の学習・教育目標を達成するために必要な教育方法及び教育技術の改善・向上を推進するため福井工業高等専門学校教育改善委員会 (以下「委員会」という。) を置く。	
(委員会の組織)	
第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。	
(1) 教務主事	
(2) 校長が指名した教官 各学科 (教室) 1 名	
(3) その他校長が特に必要と認めた者	
(委員長)	
第 3 条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。	
2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。	
(委員以外の者の出席)	
第 4 条 委員長は、必要に応じて委員会に委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。	
(委員会の任務)	
第 5 条 委員会の任務は、次のとおりとする。	
(1) 学習・教育目標に基づく教育の実施に関すること。	
(2) 教育効果の現状分析に関すること。	
(3) 教育方法の改善及び教育技術の向上に関すること。	
(4) 教員の業績評価に関すること。	
(5) その他教育改善の推進に関すること。	
(事務)	
第 6 条 委員会に関する事務は、学生課において処理する。	
附 則	
この規則は、平成 15 年 5 月 22 日から施行する。	
113	D 【福井高専 III】 113

(出典 福井工業高等専門学校 規則集 1 1 3 頁)

(資料 6－1－⑤－4) 「福井工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則」

第 1 編 規程・内規 (福井工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則) ○福井工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則 (平成11年7月15日) 規 則 第 11 号 改正 平成16年4月8日規則第15号 《設置》 第 1 条 本校に、福井工業高等専門学校内部組織規則(昭和54年規則第2号)第2条の2に基づき、自己点検・評価委員会(以下「委員会」という。)を置く。 《目的》 第 2 条 委員会は、高等専門学校設置基準(昭和36年文部省令第23号)第3条に規定する自己点検・評価を実施する際の必要な事項について審議するものとする。 《委員会の組織》 第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。 (1) 校長 (2) 主事 (3) 専攻科長 (4) 学科(教室)主任 (5) 図書館長 (6) 総合情報処理センター長 (7) 先進技術教育研究センター長 (8) 教育研究支援センター長 (9) 事務部長 (委員長) 第 4 条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。 《会議》 第 5 条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。 《委員以外の者の出席》 第 6 条 委員長は、必要に応じて委員会に委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。 105	第 1 編 規程・内規 (福井工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則) 《委員会の任務》 第 7 条 委員会は、次の各号に掲げる事項について企画、検討及び実施する。 (1) 自己点検・評価の基本方針に関すること。 (2) 自己点検・評価の項目に関すること。 (3) 自己点検・評価の実施に関すること。 (4) 自己点検・評価に関する報告書の作成及び公表に関すること。 (5) その他自己点検・評価に関すること。 《専門部会》 第 8 条 委員会の所掌事項を専門的に調査検討するため、委員会に専門部会を置くことができる。 2 専門部会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。 《自己点検・評価の結果の対応》 第 9 条 校長は、委員会が実施した自己点検・評価の結果に基づき、必要に応じて第三者の評価を受け、改善が必要と認められるものについては、関係部署に対して、その改善を指示するものとする。 《事務》 第 10 条 委員会の庶務は、庶務課が処理する。 附 則 この規則は、平成11年7月15日から施行する。 附 則 (平成16年4月8日改正) この規則は、平成16年4月8日から施行し、平成16年4月1日から適用する。 106
--	--

(出典 福井工業高等専門学校 規則集 105頁)

(資料 6－1－⑤－5) 「福井工業高等専門学校評議員会規則」

第 1 編 規程・内規 (福井工業高等専門学校評議員会規則) ○福井工業高等専門学校評議員会規則 (平成16年5月13日) 規 則 第 21 号 改正 平成16年6月3日規則第23号 《設置》 第 1 条 福井工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、広く学外有識者の意見を聴くための組織として、福井工業高等専門学校評議員会(以下「評議員会」という。)を置く。 《任務》 第 2 条 評議員会は、本校の教育研究目標・計画、自己評価、その他本校の運営に関する重要事項について、校長の諮問に応じて審議・評価し、及び校長に対して助言又は勧告を行う。 《組織》 第 3 条 評議員会は、10人以内の評議員で組織する。 2 評議員は、本校教職員以外の者で高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者のうちから校長が委嘱する。 3 評議員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、評議員に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。 《議長》 第 4 条 評議員会の議長は、評議員の互選により定める。 《評議員会の開催》 第 5 条 評議員会は、校長が招集する。 2 評議員会は、年1回以上開催するものとする。 3 評議員会は、必要に応じて関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。 《守秘義務》 第 6 条 評議員は、その役割を遂行するうえで知り得た情報を、正当な理由なく漏洩してはならない。 《庶務》 98	第 1 編 規程・内規 (福井工業高等専門学校評議員会規則) 第 7 条 評議員会の庶務は、庶務課が処理する。 附 則 この規則は、平成16年5月13日から施行する。 附 則 (平成16年6月3日改正) この規則は、平成16年6月3日から施行する。 99
--	---

(出典 福井工業高等専門学校 規則集 98頁)

(資料 6－1－⑤－6) 「福井工業高等専門学校教育システム評価委員会規則」

第1編 規程・内規 (福井工業高等専門学校教育システム評価委員会規則)	
○福井工業高等専門学校教育システム評価委員会規則	
(平成16年4月8日) (規 則 第 18 号)	
(設置)	
第1条 福井工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、本校の学習・教育目標を達成するために必要な教育内容、教育手段及び教育環境等の点検・評価に基づく改善を推進するため福井工業高等専門学校教育システム評価委員会(以下「委員会」という。)を置く。	
(任務)	
第2条 委員会は、教育システムに関する次の事項を審議する。	
(1) 自己点検・評価に基づく改善の指針に関すること。	
(2) 外部評価並びに第三者評価に基づく改善の指針に関すること。	
(3) その他教育システムの改善に関すること。	
(組織)	
第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。	
(1) 教務委員会委員のうちから選出された者	1名
(2) 指導委員会委員のうちから選出された者	1名
(3) 学寮運営委員会委員のうちから選出された者	1名
(4) 専攻科委員会委員のうちから選出された者	1名
(5) JABEE委員会委員のうちから選出された者	1名
(6) 教育改善委員会委員のうちから選出された者	1名
(7) 進路指導委員会委員のうちから選出された者	1名
(8) 図書館運営委員会委員のうちから選出された者	1名
(9) 総合情報処理センター運営委員会委員のうちから選出された者	1名
(10) 施設整備部会委員のうちから選出された者	1名
2 前項に定める委員のほか、校長が特に必要と認めた者を加えることができる。	
(委員長)	
第4条 委員会に委員長を置き、校長が任命する。	
111 - 2	

第1編 規程・内規 (福井工業高等専門学校教育システム評価委員会規則)	
2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。	
(委員以外の者の出席)	
第5条 委員長は、必要に応じて委員会に委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。	
(座席)	
第6条 委員会の座席は、庶務課が処理する。	
附 則	
この規則は、平成16年4月8日から施行する。	
D (福井工業高等専門学校) 111 - 3	

(出典 福井工業高等専門学校 規則集 111.2頁)

(資料 6－1－⑤－7) 「福井工業高等専門学校 JABEE 委員会規則」

第1編 規程・内規 (福井工業高等専門学校 JABEE 委員会規則)	
○福井工業高等専門学校 JABEE 委員会規則	
(平成15年5月22日) (規 則 第 4 号)	
(設置)	
第1条 本校に、日本技術者教育認定機構(以下「JABEE」という。)における技術者教育プログラムの認定審査に対応するため、福井工業高等専門学校 JABEE 委員会(以下「委員会」という。)を置く。	
(委員会の組織)	
第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。	
(1) 教務主事	
(2) 専攻科長	
(3) 教務委員会委員	若干名
(4) 専攻科委員会委員	若干名
(5) その他校長が特に必要と認めた者	
(委員長)	
第3条 委員会に委員長を置き、校長が指名する者をもって充てる。	
2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。	
(委員以外の者の出席)	
第4条 委員長は、必要に応じて委員会に委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。	
(委員会の任務)	
第5条 委員会の任務は、次のとおりとする。	
(1) JABEE の認定審査及び関連する事項の調査に関すること。	
(2) その他 JABEE に関すること。	
(事務)	
第6条 委員会に関する事務は、庶務課において処理する。	
附 則	
この規則は、平成15年5月22日から施行する。	
D (福井工業高等専門学校) 109	

(出典 福井工業高等専門学校 規則集 109頁)

(資料 6 - 1 - ⑤ - 8) 「達成度評価アンケートに関する議事録」

議 事 録

会議の名称	教育改善委員会	平成 17 年度 (第 1 回)
日 時	平成 17 年 4 月 12 日 (火) 16 時 30 分～17 時 00 分	
出席者	会議構成員 6 名 [太田、藤田、山本、野村、津田、辻野、小林] その他の職員 2 名 [教務係長、教務係員]	
会 場	主事室	

審議事項等

1. 本科卒業生・専攻科修了生の教育達成度に関するアンケート調査について
卒業生・修了生の教育達成度について進学先及び就職先の各担当宛に調査依頼することとした。
アンケート内容については各学科の当委員が中心となり別紙資料を参考に作成することとした。
アンケートの発送は 4 月下旬から 5 月初旬に行うこととした。
2. 平成 17 年度の役割分担について
別紙案のとおり分担することとした。

(出典 平成 17 年度(第 1 回) 教育改善委員会 議事録)

(資料 6－1－⑤－9) 「達成度評価アンケートの依頼状とアンケートの例」

平成 17 年 5 月 9 日

企業・大学・専攻科 各担当者各位

福井工業高等専門学校
教育改善委員会

本科卒業生及び専攻科修了生の教育達成度に関するアンケート調査についてお願い

拝啓 新緑の候、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。
本校における教育・研究につきましては、平素より多大なる御理解と御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。
本校は、5 年一貫の科学技術教育により、創造力と実践力を持つ技術者を育成することを目的として昭和 40 年(1965 年)に設置された国立高等教育機関です。また、平成 10 年(1998 年)には、さらにこのような本科 5 年間の教育課程の上に、より高度な専門的知識と技術を教授し、創造的な研究開発や先端技術に対応できる人材を育成する目的で 2 年間の課程である専攻科を設置しました。
本校の教育方針は、
1. 技術者として必要かつ十分な基礎的学力と専門技術を修得させる。
2. 個性を伸長し、独創的能力の開発に努力する。
3. 教養の向上につとめ、良識ある国際人としての成長を期する。
4. 健康の増進につとめ、肉体的精神的に強じんな耐久力を育成する。
5. 規律のある日常生活に徹し、明朗、かつ連な實性のかん養を図る。
であり、このような方針のもとに、知育・徳育・体育のバランスの取れた全人教育を目指した以下のような 3 つの教育目標をまず掲げています。
(1) たくましい人間の育成
(2) 創造性豊かな人間の育成
(3) 誠実な人間の育成
さらに、新しい時代の技術者として備えなければならない能力的育成を目指して以下の 5 つの教育目標を掲げました。
(A) 地味な視点の技術者倫理を意識した、ものづくり・環境づくり、システムデザイン能力の育成
(B) 幅広い工学的素養、得意とする専門技術の基礎能力および応用能力の育成
(C) 豊かな創造力とデザインマインドを持ち、常に自己を啓発し、新しい課題・分野に挑戦する能力の育成
(D) 高度に情報化した国際社会に必要なコミュニケーション基礎能力とプレゼンテーション能力の育成
(E) 体験に基づいて問題を発見し、解決策を企画・実行する実践的能力および論理的思考能力の総合的な育成
そこで、このような教育目標を本校の教育に御協力いただいている方々による本科卒業生及び専攻科修了生の教育達成度調査から見直し、さらに社会の要請に応じた人材の育成を目指したいと存じております。御多忙中恐縮ですが、別紙の本科卒業生及び専攻科修了生(学生名及び入社・入学年度はアンケートの項目 4 に記載)に対する教育達成度アンケートにご記入のうえ、同封の返信用封筒により 7 月 1 日(金)までにご返送くださるようお願い申し上げます。
アンケートは本校の教育目標の見直し以外の目的には使用することはありませんので、趣旨を御理解のうえ、御協力をお願い申し上げます。

教員

企業向けアンケート(機械工学科卒業生)

人事担当者 様

1. 企業名 _____
2. 業種 _____
3. 人事担当者連絡先 _____
A. 氏名前 _____
B. TEL: _____ FAX: _____
C. E-mail: _____

4. 貴社へ入社した福井高専機械工学科卒業生(貴社入社年度)は下記の学生です。達成度は入社した学生の平均値で、また問 5.6 については絶対評価で、問 7 については絶対評価あるいは相対評価でご回答ください。
所属製作(2004(平 16))

5. 福井高専機械工学科卒業生の教育達成度についてお聞きします。[] 内からひとつ選んで○をご記入ください。

A. 技術者倫理が [満足・ほぼ満足・やや不足・不足]
B. 基礎学力が [満足・ほぼ満足・やや不足・不足]
不足またはやや不足とお答えになった方にお聞きします。具体的にどのような科目の分野でしょうか?
(複数回答可)
[数学・物理・生物・英語・国語・人文社会系科目・その他 ()]]

C. 専門基礎学力が [満足・ほぼ満足・やや不足・不足]
不足またはやや不足とお答えになった方にお聞きします。具体的にどのような科目の分野でしょうか?
(複数回答可)
[材料科学・機械工作法・工業力学・材料力学・流体力学・熱力学・振動工学・機械設計・自動制御・その他 ()]]

D. 実践実習能力が [満足・ほぼ満足・やや不足・不足]
不足またはやや不足とお答えになった方にお聞きします。具体的にどのような科目の分野でしょうか?
(複数回答可)
[工作実習・創造工学演習・機械設計演習・機械工学実験・電気工学実験・その他 ()]]

E. 専門応用能力が [満足・ほぼ満足・やや不足・不足]
不足またはやや不足とお答えになった方にお聞きします。具体的にどのような科目の分野でしょうか?
(複数回答可)
[材料科学・熱機関・伝熱工学・流体機械・電子応用・ロボット工学・システム工学・メカトロニクス・卒業研究・その他 ()]]

F. その他、不足している能力 ()

6. 貴社が求める社員の方についてお聞きします。[] 内からひとつ選んで○をご記入ください。
前問 5 のテーマの中で、貴社が高専からの前入社員に必要とする能力は?
A. 技術者倫理 [必要・出来れば必要・あまり必要でない、必要でない]
B. 基礎学力 [必要・出来れば必要・あまり必要でない、必要でない]
C. 専門基礎学力 [必要・出来れば必要・あまり必要でない、必要でない]
D. 実践実習能力 [必要・出来れば必要・あまり必要でない、必要でない]
E. 専門応用能力 [必要・出来れば必要・あまり必要でない、必要でない]

7. 福井高専機械工学科卒業生(貴社社員)の印象についてお聞きします。[] 内からひとつ選んで○をご記入ください。比較は社員同士の社員でお願いします。

A. 福井高専機械工学科卒業生(貴社社員)は絶対評価として [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る]
具体例に、(絶対評価として)
・基礎学力 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る] ・専門基礎学力 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る]
・独創的能力 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る] ・協調性 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る]
・行動力 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る] ・表現力 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る]
・社交性 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る] ・正直さ [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る]
・情報処理能力 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る]

B. 専門学校の卒業生と比べて相対評価として [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る、専門学校の卒業生はいい]
専門学校の卒業生がいない場合、以下は無回答で結構です。いる場合は相対評価でご回答ください。
具体例に、
・基礎学力 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る] ・専門基礎学力 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る]
・独創的能力 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る] ・協調性 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る]
・行動力 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る] ・表現力 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る]
・社交性 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る] ・正直さ [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る]
・情報処理能力 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る]

C. 他高専の卒業生と比べて相対評価として [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る、他高専の卒業生はいい]
他高専の卒業生がいない場合、以下は無回答で結構です。いる場合は相対評価でご回答ください。
具体例に、
・基礎学力 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る] ・専門基礎学力 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る]
・独創的能力 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る] ・協調性 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る]
・行動力 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る] ・表現力 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る]
・社交性 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る] ・正直さ [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る]
・情報処理能力 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る]

D. 大学の学部卒業生と比べて相対評価として [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る、大学の学部卒業生はいい]
大学の学部卒業生がいない場合、以下は無回答で結構です。いる場合は相対評価でご回答ください。
具体例に、
・基礎学力 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る] ・専門基礎学力 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る]
・独創的能力 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る] ・協調性 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る]
・行動力 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る] ・表現力 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る]
・社交性 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る] ・正直さ [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る]
・情報処理能力 [優秀・やや優秀・やや劣る・劣る]

8. [国際社会への対応を考えた場合、語学力が挙げられます。高専卒業生(本科)の貴社新入社員へ期待される語学力(英語力)について TOEIC スコアとして、何点ぐらいの必要と考えられますか。ひとつ選んで○をご記入ください。
1. 350 点程度 2. 380 点程度 3. 400 点程度 4. 450 点程度 5. 500 点程度 6. 550 点以上

9. 最後に、福井高専機械工学科への全体的な評価やその特色、そして期待についてコメントを頂きたいと存じます。以下に記して下さい。

[]

ご協力ありがとうございました。
アンケートに関する問合せ先
〒 916-8507
福井県鯖江市下町 福井工業高等専門学校
機械工学科 学科主任 田中恭彦様
TEL: 0778-62-9249
FAX: 0778-62-3306
E-mail: katamaki@fukui-nct.ac.jp

(出典 教育改善委員会)

(資料 6 - 1 - ⑤ - 1 0) 「アンケート送付先-機械工学科卒業生用」

2002(2003(平15)4月入社、入学)、2003(2004(平16)4月入社、入学)

No.	卒業年度	氏名	就職・進学先	住所
1	2002, M卒		リコ・テクノシステムズ(株) 中部支社	〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦町1-3-7 S K名古屋ビル3階
2	2002, M卒		(株) ミツヤ	〒910-0108 福井市山室町69-1
3	2002, M卒		(株) アイ・エイチ・アイエアロスペースエンジニアリング	〒370-2308 群馬県富岡市藤木900番地
4	2002, M卒		大同工業(株)	〒922-8686 石川県加賀市熊坂町イ197番地
5	2003, M卒		大同工業(株)	〒922-8686 石川県加賀市熊坂町イ197番地
6	2002, M卒		小野谷機工(株)	〒915-0801 武生市家久町63-1
7	2002, M卒		高崎技研(株)	〒919-0742 坂井郡あわら市瓜生29-2
8	2002, M卒		岩崎工業(株)	〒919-0614 福井県あわら市伊井60-24-1
9	2002, M卒		日本ガイシ(株)	〒467-8530 名古屋市瑞穂区須田町2-56
10	2002, M卒		日本特殊機器(株)	〒105-0012 東京都港区芝大門1-3-2
11	2002, M卒		(株) カワムラサイクル	〒651-2411 兵庫県神戸市西区上新地3丁目9-1
12	2002, M卒		(株) ダスキン福井	〒918-8026 福井市洲3-315
13	2002, M卒		小島プレス工業(株)	〒471-8588 愛知県豊田市中市場町3-30
14	2003, M卒		小島プレス工業(株)	〒471-8588 愛知県豊田市中市場町3-30
15	2002, M卒		(株) 吉野工業所滋賀工場	〒521-1334 滋賀県蒲生郡安土町西老蘇310
16	2002, M卒		(株) アタゴ	〒918-8588 福井市みのり4丁目13-1
17	2003, M卒		大阪シーリング印刷(株)	〒543-0028 大阪市天王寺区小橋町1-25
18	2003, M卒		盟友技研(株)	〒910-8026 福井県福井市洲3-401
19	2003, M卒		日本車輜製造(株)	〒456-8691 名古屋市熱田区三本松町1-1
20	2003, M卒		高木製作所(株)	〒460-0024 名古屋市中区正木3-6-6
21	2003, M卒		ソニーイーエムシーエス(株)	〒491-0192 愛知県一宮市大字高田字池尻6
22	2003, M卒		花王(株) 和歌山工場	〒640-8580 和歌山市湊1334
23	2003, M卒		竹内光学工業(株)	〒916-0005 鯖江市杉本町35-110
24	2003, M卒		日清紡績(株) 名古屋工場	〒457-8505 名古屋市南区豊田5-14-25
25	2003, M卒		(株) フクタカ	〒911-0815 勝山市下高島11-1-2
26	2003, M卒		ソディックプラスチック(株)	〒922-0595 石川県加賀市宮町カ1-1
27	2003, M卒		三菱重工業(株) 横浜製作所	〒231-8715 神奈川県横浜市中区錦町1-2
28	2003, M卒		ニチコン大野(株)	〒912-0095 福井県大野市下丁1-11-2
29	2003, M卒		(株) リコー 福井事業所	〒919-0547 坂井郡坂井町大味64-1
30	2003, M卒		バスカル(株)	〒664-8502 兵庫県伊丹市鴻池街道下10
31	2003, M卒		富士電機システムズ(株)	〒102-0075 東京都千代田区三番町6-17
32	2003, M卒		田中製作所(株)	〒916-0041 鯖江市東鯖江4-4-15
33	2003, M卒		日立建機(株) 関西支社	〒618-8511 京都府乙訓郡大山崎町宇大山崎小字岸畑2-2
34	2002, M卒		岐阜大学工学部機械システム工学科	〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1岐阜大学工学部
35	2002, M卒		山梨大学工学部機械システム工学科	〒400-8511 山梨県甲府市武田4-3-11山梨大学工学部
36	2002, M卒		福井大学工学部知能システム工学科	〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1福井大学工学部
37	2003, M卒		福井大学工学部知能システム工学科	〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1福井大学工学部
38	2003, M卒		福井大学工学部知能システム工学科	〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1福井大学工学部
39	2003, M卒		福井大学工学部知能システム工学科	〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1福井大学工学部
40	2002, M卒		福井大学工学部機械工学科	〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1福井大学工学部
41	2003, M卒		福井大学工学部機械工学科	〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1福井大学工学部
42	2002, M卒		金沢大学工学部機能機械工学科	〒920-8667 石川県金沢市小立野2-40-20金沢大学工学部
43	2003, M卒		金沢大学工学部機能機械工学科	〒920-8667 石川県金沢市小立野2-40-20金沢大学工学部
44	2002, M卒		金沢大学工学部人間・機械工学科	〒920-8667 石川県金沢市小立野2-40-20金沢大学工学部
45	2003, M卒		金沢大学工学部人間・機械工学科	〒920-8667 石川県金沢市小立野2-40-20金沢大学工学部
46	2003, M卒		三重大学工学部機械工学科	〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577三重大学工学部
47	2003, M卒		三重大学工学部機械工学科	〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577三重大学工学部
48	2003, M卒		群馬大学工学部機械システム工学科	〒376-8515 群馬県桐生市天神町1-5-1群馬大学工学部
49	2003, M卒		和歌山大学システム工学部光メカトロニクス学科	〒640-8510 和歌山県和歌山市栄谷930番地和歌山大学システム工学部
50	2003, M卒		九州工業大学情報工学部機械システム工学科	〒820-8502 福岡県飯塚市大字川津680-4九州工業大学情報工学部
51	2002, M卒		豊橋技術科学大学工学部機械システム工学課程	〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1豊橋技術科学大学工学部
52	2003, M卒		豊橋技術科学大学工学部機械システム工学課程	〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1豊橋技術科学大学工学部
53	2002, M卒		長岡技術科学大学工学部機械システム工学課程	〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1長岡技術科学大学工学部
54	2003, M卒		長岡技術科学大学機械創造工学課程	〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1長岡技術科学大学工学部
55	2002, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
56	2002, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
57	2002, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
58	2002, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
59	2002, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
60	2002, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
61	2002, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
62	2002, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
63	2002, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
64	2003, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
65	2003, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
66	2003, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
67	2003, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
68	2003, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	
69	2003, M卒		福井工業高等専門学校専攻科	

(出典 教育改善委員会)

(分析結果とその根拠理由)

(資料6-1-⑤-11)に示す卒業(修了)生アンケートにおいて、卒業(修了)生の回答したほとんど(約90%)が本校を卒業(修了)したことに満足しており、満足度は高く、教育の成果は上がっているといえる。さらに、(資料6-1-⑤-12)に示すような就職・進学先からのアンケートにおいて、本人の絶対評価や他高専卒業生との比較を行った結果では評価は高く、卒業(修了)生)が在学中に身につけた学力や能力は本校の目的に沿ったものであり、教育の成果や効果が上がっていることを示していた。

(資料6-1-⑤-11)「平成15、16年度卒業生アンケート(抜粋)」

第1回卒業生対象アンケート調査結果

平成15年7月

教育改善委員会

社会人として活躍中の卒業生に対して、高専(専攻科)在学中の授業などに対するアンケート調査を行った。第1回ということもあり、平成14年度卒業生の中から50名を任意に選び平成15年7月から8月にかけて調査を行った。旧保護者宅への郵送による調査だったこともあり、回収率は34%と低かった。結果が寄せられたうち、2人が大学在学中、1人が官公庁勤務、1人が専門学校在学中、残り13名は企業勤務であった。

1 アンケート調査票

アンケート調査票は次のようである。

卒業年 平成 年3月

卒業学科 工学科(専攻)

1 現在の所属

- (1) 企業 (2) 大学 (3) 官公庁 (4) 専門学校
(5) その他 ()

2 現在、在籍している、企業・大学などで、高専(専攻科)で学んだことで役立っている科目(実験・実習を含む)を二つあげてください。

- (1) (2)
(3)あまり役立っていない。 (4) その他 ()

3 あなたは福井高専(専攻科)を卒業して良かったと思っていますか。

- (1) 良かった (できたらその理由を書いてください)
()
(2) 高校へ行けば良かった (できたらその理由を書いてください)
()
(3) 特に考えていない
(4) その他
()

4. 福井高専では、現在5つの学科がありますが、これを統合し、一つの大学科とし、3年次に機械系、電気系、化学系、環境系などのコースに分かれる案を議論しています。意見がお有りでしたら書いてください(特に社会人としての視点で書いてください)。

- (1) 大いに議論すべき(意見がありましたら書いてください)
(2) あまり意味がなさそうだ。

5-22-(3)

平成16年10月21日

平成16年度卒業生アンケート結果

教育改善委員会

平成16年度卒業生を対象に、高専の授業、制度などに対する意識調査を平成16年9月から10月にかけて行った。本科は各学科の卒業生20名、専攻科は全員の卒業生にアンケート依頼を行った。回収数は下記の表のようであった。

学科(専攻)	アンケート回収数
機械工学科	9
電気工学科	5
電子情報工学科	4
物質工学科	3
環境都市工学科	4
生産工学システム専攻	3
環境工学システム専攻	1
総計	29

1. アンケート文

調査に用いたアンケート文は次のようである。

第2回卒業生対象アンケート調査

卒業年 平成16年3月

卒業学科 工学科 (システム専攻)

1 現在の所属

- (1) 企業 (2) 専攻科 (3) 大学 (4) 官公庁 (5) 専門学校
(6) その他 ()

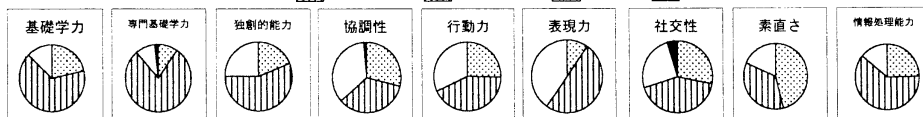
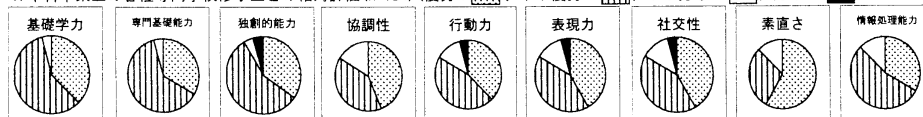
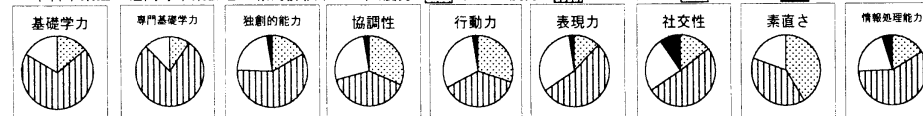
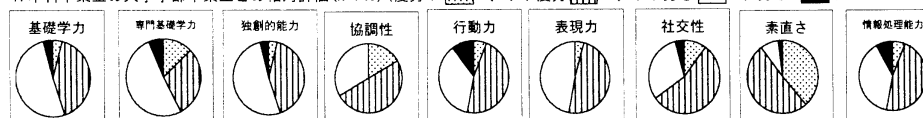
2 現在、在籍している、企業・大学などで、高専(専攻科)で学んだことで役立っている科目(実験・実習を含む)を二つあげてください。

1

(出典 教育改善委員会)

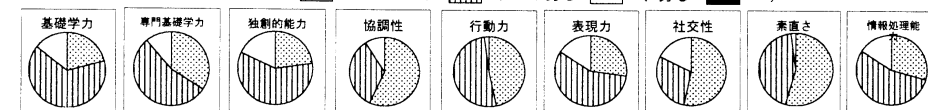
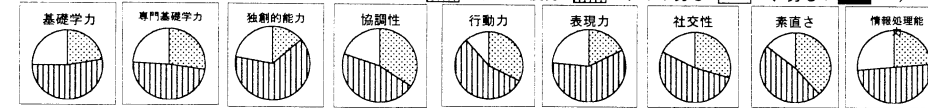
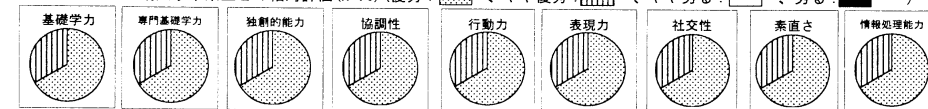
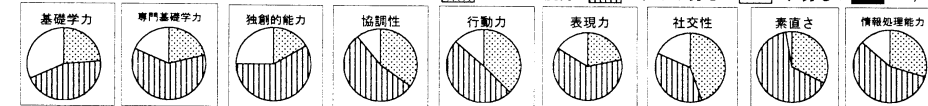
(資料 6-1-⑤-12)「本科卒業生の達成度評価アンケート結果」の例

本科-企業アンケート-2

4. 本科卒業生の絶対評価 (N=59) (優秀: 、やや優秀: 、やや劣る: 、劣る: )5. 本科卒業生の各種専門学校修了生との相対評価 (N=24) (優秀: 、やや優秀: 、やや劣る: 、劣る: )6. 本科卒業生の他高専卒業生との相対評価 (N=42) (優秀: 、やや優秀: 、やや劣る: 、劣る: )7. 本科卒業生の大学学部卒業生との相対評価 (N=49) (優秀: 、やや優秀: 、やや劣る: 、劣る: )

本科-大学・専攻科アンケート-2

4/6

4. 本科卒業生の絶対評価 (N=44) (優秀: 、やや優秀: 、やや劣る: 、劣る: )5. 本科卒業生の他高専卒業生との相対評価 (N=34) (優秀: 、やや優秀: 、やや劣る: 、劣る: )6. 本科卒業生の短期大学卒業生との相対評価 (N=6) (優秀: 、やや優秀: 、やや劣る: 、劣る: )7. 本科卒業生の大学学部3年生との相対評価 (N=37) (優秀: 、やや優秀: 、やや劣る: 、劣る: )

(出典 教育改善委員会)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

就職や進学を希望している学生の進路決定率は非常に高い。また、年々科目の取得率は向上し、原級留置率や退学者数は減少している。平成17年5月に本校の「環境生産システム工学」教育プログラムがJABEEによる技術者教育プログラムとして認定されたことから、平成17年度の専攻科修了生は全員JABEE認定教育プログラム修了生となる。

(改善を要する点)

授業アンケートの中の学生による達成度評価により、学生がどの程度科目の目標を達成しているかを年ごとに担当教員は把握できているが、それが年々向上しているかどうかの評価が学校全体ではなされていない。就職・進学先アンケートは今回が初めてであり、今後も継続する必要がある。

(3) 基準6の自己評価の概要

学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するために、準学士・学士課程共に各学科・専攻の教育目標が明確に定められ、その教育目標を達成するための系統的なカリキュラムが編成されている。カリキュラム中の各科目はその科目を担当できる能力があると認められた教員が授業を行い、さらに各科目のシラバスには成績評価基準が明記されており、教員はそれに従って成績評価を行っている。また、準学士課程においては、明確な進級基準、準学士・学士課程共に明確な卒業・修了基準が定められ、その基準に沿って各種委員会の活動が厳格になされている。

学生が身に付ける学力や資質・能力については、準学士課程においては、単位取得率の向上、仮進級率、原級留置率及び退学率の減少、資格試験取得者の増加、学協会による表彰、卒業研究の水準等により、学士課程においては学外研究発表、学士号取得の状況、特別研究の水準等から判断して、教育の成果や効果が上がっているといえる。また、平成16年度に「環境生産システム工学」教育プログラムがJABEEの技術者教育プログラムとして認定されたことから、平成16年度は教育プログラムを全て満たした専攻科修了生が、平成17年度は、専攻科修了生全員がJABEE認定の教育プログラム修了生となる。

卒業（修了）後の進路決定率はほぼ100%を達成しており、また就職先を産業別で分類すると、各学科・専攻の特徴が現れており、各学科・専攻の意図している教育の成果が上がっているといえる。

平成13年度から学生による科目の達成度評価項目を含んだ授業評価アンケートがなされている。しかし、年々この達成度が向上しているかどうかを学科ごとに集計する等の取り組みは現在まで行われていないために、教員の自主的な改善のためだけのアンケートになっておりシステムとしての改善を要する。

在学時に身につけた学力や資質・能力に関する意見を聴取するための卒業生や就職・進学先へのアンケートを実施しており、その結果から教育の成果や効果が上がっているといえる。